草の根の指導者と共に

−40年の歩み−

ARI

the history of ARI 1973−2013

ご挨拶
名誉学院長 高見敏弘

感謝の言葉

感謝、感謝、感謝です。

アジア学院は順調に進んで、今では地方の地図にも大きく
アジア学院と載っているほどになりました。これまで大勢の人、
何千人、何万人という人たちの努力が積み重なってこのように
育ってきたと思い、本当に感謝以外の言葉はありません。

極端にいえば、世界中にいる人々の祈りと願いが結集して
アジア学院になったと思うのです。ありがとうございます。

こうなるために何万人という人々がアジア学院を
訪ねてくださいました。
またボランティア、職員、地域の方々、栃木県の皆様、
その他の訪問者などのおかげです。一度だけ訪ねてくださった方々や、
長期に亘ってアジア学院にボランティアとして来て下さった方々、
そして中には、ご自分の役割としていつも食事作りを担って
くださった方もおられます。

アジア学院がこのような人々に支えられて益々世界の人々、
特に農民に尽くす学校として存在し続けることを願います。

創立40年史発行にあたって

アジア学院創立40年を記念して、小誌アジア学院40年の歴史「草の根の指導者と共に―40年の歩み」を発行できますことを喜んでいます。創立者高見敏弘は、常々アジア学院の働きは、人への投資であると語っていますが、40年の歴史の中で1200人以上の卒業生をこの学び舎から、アジア、アフリカを始め多くの国々へ送り出すことが出来たことを感謝しています。草の根の現場にあって人々に仕えるリーダーの育成が、私たちの願いです。

また、40年の歴史の中でアジア学院創立当初から今日まで、多くの人々の協力があったことを忘れることが出来ません。お一人お一人のお支えの上にアジア学院の40年の歴史があることを心にとどめたいと思っています。

そしてアジア学院として、財政危機、地震・放射能被害などの荒れ野の試みを受けながら、40年の歴史を導いてくださった神に感謝いたします。

理事長・校長　大津　健一

目次

1　創立40周年史発行にあたって
2　アジア学院創設まで
4　history 1973–1982
7　共に歩んでくださった人々① 福本治夫 牧師
8　history 1983–1992
11　共に歩んでくださった人々② 村上周平 さん
12　history 1993–2002
14　共に歩んでくださった人々③
　　グレッチェン・デブリース 宣教師
15　共に歩んでくださった人々④ 厳泰成 牧師
16　history 2003–2012
19　共に歩んでくださった人々⑤ 丹羽章 先生
20　アジア学院の卒業生
　　東南アジア農村指導者養成所　卒業生　1960–1972
21　アジア学院卒業生　本科生 1973–2012
26　アジア学院卒業生　研究科生 1986–2012
27　理事・監事・評議員・職員・後援会会長・
　　北米アジア学院後援会会長
28　編集後記
29　アジア学院テーマソング“Take My Hand”

SEACの学生と高見敏弘（一番左、1962-64年頃）

アジア学院創設まで

東アジアキリスト教協議会（EACC）[*1]の創立総会が1959年、クアラルンプールで開催された。その総会席上、「アジア各国の戦後復興に資するために農村牧師の養成・訓練が急務であり、この任務の遂行を日本の教会に期待する」旨の決議が全会一致で採択された。その後EACC はこの決議内容の実現方を日本基督教団宛てに正式に要請した。

これを受け、翌1960年4月、農村伝道神学校（在東京都町田市）内に新たに東南アジア農村指導者養成所（SEAC）[*2]が開設された。この養成所が「神学校」内に設置されることとなった意味は、第二次大戦において日本の諸教会が戦争協力に加担したことに対し、戦争責任を告白し、具体的な贖罪の歩みを始めることにあった。当初の入学生は日本人の他に、主に韓国や台湾からの農村牧師・伝道者であったが、時と共にフィリピンやタイなど、他のアジア諸国からも学生を迎えるようになった。「日本人農業技術者をアジア各国に派遣し、地域の開発に携わらせる」というそれまでの発想から、「現に各国の農村地域で活動する地元ワーカーを受け入れ、研修終了後には帰国の上、再び活動が続けられるよう支援する」といういわば新しい開発援助哲学の萌芽をここに見ることができる。

高度経済成長政策にまい進することとなった当時の日本における農政は、農業基本法をその柱として、欧米にならった規模拡大近代化路線を進めることであった。そうした時代の流れの中で、1962年に第2代養成所々長となった高見敏弘は、それよりも、東南アジア諸国の実情に合った研修プログラムを築くことを模索した。学生たちと共に各地の篤農家を訪ね、積極的に日本の伝統的農業技術や生活技術を取り入れていった。こうして農民との草の根的交流も拡がり、少しずつではあったが、そして多様な形で、「戦後和解」という営みも同時に展開されるようになっていった。

農村伝道神学校は1963年に学校法人鶴川学院へと生まれ変わるのだが、1970年、同学院の組織改編に伴い、東南アジア農村指導者養成所は「東南アジア科」となり、神学科や保育科と同列に位置付けられることとなった。しかしその後の財政危機の中で、事業の縮小（保育科の廃止など）と職員数の大幅な削減を実施せざるを得なくなっていった。幸い東南アジア科は神学科同様、ひとまず存続することとなった。

そうした中、東パキスタン（当時）に世界の耳目が注がれた。ほぼ毎年、サイクロン災害を受けていた地域ではあったが、1970年、1971年の被害は特に甚大で、世界教会協議会（WCC）は、一時800万人を超えたとも報道される避難民の救援のため、加盟教会・教団に対し緊急行動を訴えた。日本キリスト教協議会（NCCJ）奉仕部では、『共に生きるために』という標語の下、難民救援募金[*3]を1971年11月に開始した。NCCJ 奉仕部の要請で、東南アジア科々長の高見敏弘、当時インドに滞在していた同科職員の

最初の見学用バス購入（1971年頃）

農村伝道神学校の武藤健校長（左から5人目）と高見夫妻（その右、1960年代前半頃）

牧野一穂が被災地を訪ね、WCC が主導する復興計画の立案に協力した。

この後12月には、印パ戦争を経てバングラデシュが独立する。独立以前に当時の政府機関が日本から輸入していた小型耕運機約300台がとある港湾倉庫に保管されていたことが分かり、現地のカトリック系救援団体はこれを購入し、その操作指導員の派遣を日本の教会に打診してきた。NCCJ 奉仕部（プロテスタント系）とカリタス・ジャパン（カトリック系）は合同委員会を組織し、1972年4月、50人の青年をダッカに派遣した。団長には高見敏弘（奉仕部副総主事、SEAC 科長）が就き、後に菊地創、牧野一穂（ともに SEAC 職員）と交代した。「NGO」といった用語すら日本にまだ定着していなかった時代にあって、民間団体による国際協力事業の草分け的存在の一つと数えられた。

任務を終え、同年7月末に帰国した青年たちには、自らの経験を一過性の救援活動に終わらせたくない、持続的な協力関係が築けないものか、との強い思いがあった。一方 NCCJ 奉仕部でも、「現地の人々による自立を妨げないで、われわれができる協力は何か。農業指導者を養成するため、数人の青年をバングラデシュから招く」*4という考え方に軸足を移し始めていた。「共に生きるために」という大きな物語の第2幕が始まろうとしていた。

この頃、鶴川学院内では前述のように財政的事情から事業の縮小を余儀なくされていた。その中で高見敏弘を中心とするSEAC 関係者は新しい道の模索を始め、その結果、栃木県西那須野町（現那須塩原市）で準学校法人アジア学院東南アジア農村指導者養成所を創設することになった。西那須野町での校地の選定と取得、県知事認可を得るためのさまざまな事務等のために、以前から農家実習などでお世話いただいていた、志を同じくする現地在住諸兄の献身的な支援があった。1972年9月16日、アジア学院設立発起人会が開催され、翌年1月20日、栃木県知事に対して学校開設の認可申請が出され、3月31日に認可を取得した。以後アジア学院ではこの「9月16日」を創立記念日としている。

参考：
第4回 WCC 総会（1968年、ウプサラにて）では、急激な世界経済の変化に翻弄される農村部に対し各加盟教団は「仕える教会」たるべきとの方向性が打ち出された。これを受け、「世界宣教と伝道委員会」内に、農村指導者の養成・訓練プログラムを担当する「農村農業伝道（RAM）」部門の事務所が置かれることとなった。時同じくして1973年の事であった。

*1 現アジアキリスト教協議会（Christian Conference of Asia : CCA）の前身にあたる。
*2 South-East Asian Christian Rural Leaders' Training Course (通称 SEAC)
*3 目標額 1,000 万円。当時の大卒の初任給が 4 万円弱であった。
*4 1972 年 11 月発行の募金報告書より。

1972 ［9月］ 下記諸氏をもって「アジア学院設立発起人会」を組織し、16日、日本キリスト教会館（東京）にて初会合を持つ。（以後、「9月16日」がアジア学院創立記念日となる。）福本 治夫 / 郡司 昌佳 / W・ショアー（代表）/ 高見 敏弘 / 井草 正 / G・デブリーズ / 有沢 政義 / 牧野 一穂 / 菊地 創 / 橘 慈子。この後、土地の取得、校舎の建設等の準備を開始。

1973 ［3月］ 栃木県知事より、「準学校法人アジア学院」寄附行為及び「東南アジア農村指導者養成所」開設の認可を取得。

［4月］ 21日、第1回理事会を開催。予算、事業計画の他、寄附行為、施行細則等々を制定。

● 設立当初理事者：高見 敏弘（理事長）/ 中嶋 正昭 / W・ショアー / 菊地 創 / 郡司 昌佳 / 福本 治夫 / 神塚 アーサー / 小川 孟（監事）/ 小山田 道雄（〃）。［5月］ 14日、開校式ならびに第1回入学式を挙行。なお、この時までに本館（二階建）、作業棟（二階建）、職員住宅（平屋建、四棟）が完成。

● 開校当時教職員：高見 敏弘（校長）/ 菊地 創（副校長）/ 牧野 一穂（教務・作物）/ 有沢 政義（会計・畜産）/ 長嶋 清（畜産・営繕）/ 橘 慈子（庶務・会計）/ 井草 正（非常勤）/ G・デブリーズ（帰国中の為、就任は次年度）

● 第1期生内訳：インド（1）タイ（1）韓国（2）マレーシア（3）バングラデシュ（3）日本（6、内4名は立正佼成会からの委託研修生）計16名。【一日の研修は朝6時30分のラジオ体操、農作業で始まり、定期的な講義として「第三世界の指導者論」、「時事諸問題演習」、「農村社会と信仰」、「協同組合論」、「自助自立のための食糧生産」などを学ぶ。座学の他に、週一日近隣の農家、学校、農業関連産業諸施設、町役場、家内工業施設、試験場、研究機関等々の見学・訪問を実施。】

【学院の発足に当たり、立正佼成会から財的ならびに物的支援をいただく。】［**6月**］ 日本基督教団全国教会婦人会連合が主催する東京でのホームステーに招かれる。現在も続く。［**7月**］ 夏期ワークキャンプならびに研究会などのため、延べ400人が来校。［**7～8月**］ 近隣農家の協力で農家住み込み実習(6週間) を行う。養鶏および養豚研修を始める。

1973年のクラス

［**10月**］ 27日、第1回収穫感謝祭：HTC を開催（来訪者約1,000人）。今日まで続く10月恒例の行事で、その企画立案、人員組織、実施運営は重要な研修項目となっている。（現在の名称は「収穫感謝の日：HTC」。）［**11月**］ 4～12日、西日本研修旅行（学院のマイクロバスにて大阪まで）。途中、農家や学校、農業関連産業諸施設、家内工業施設、試験場、研究機関、工場、教会ほかの宗教団体を訪問・見学する。［**12月**］ 10日、第1回修了式を挙行。卒業生7名。(継続研修後、さらに5名が修了。) 全国の諸教会、キリスト教団体及び個人有志に対し、クリスマス献金のお願いを送付。

1974 ［**4月**］ 有機農法による蔬菜・作物栽培を開始。［**5月**］ 第2回理事会席上、設立発起人代表であったW・ショアー理事に感謝の決議を採択。以後2年、名誉理事に。（8月に帰米し、亡くなるまで夫妻から、ショアー奨学金が送られる）。［**6月**］ 日本 YMCA 同盟新人職員の研修を受け入れる（数年後、西日本研修旅行などの折に、各地の YMCA で活躍する研修修了職員からさまざまな形の支援を受けることとなる）。

1975 ［**1月**］ ラオス人研修生実習を通して高畠有機農業研究会（山形県）との交流が始まる。［**9月**］ アジア学院財団がアメリカのカリフォルニア州に設立される。女子寮完成（10室、20人収容）栃木県海外技術研修員の受け入れ始まる（以後1981年までに計7人）。［**11月**］ 東京ユニオンチャーチとの交流・ホームステープログラムが始まる（現在まで続く）。[この年、学院広報紙『アジアの土』にて「人の生命とそれを支える食べ物を大切にする世界をつくろう―共に生きるために」との呼びかけを発表。]

1976 ［**4月**］ 世界教会協議会 (WCC) の奨学金支援を受け、初めてのアフリカ人学生（ナイジェリアとガーナから）が入学。学生・職員全員参加による朝夕の定例作業を大切な研修として位置づける。［**7月**］ 食堂棟完成。［**11月**］ 21日、日本キリスト教会館にて、アジア学院後援会(ARISA)設立総会開催。初代会長：郷司浩平。

1977 ［**5月**］ 後援会 (ARISA) 新会長に武藤富男就任。［**6月**］ 日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）が医療宣教師としてネパールに派遣していた岩村昇が特別講義のため来校。小川孟監事が辞任し、武間謙太郎に交代。［**7月**］ スリランカ出身の画家、ナリニ・ジャヤスリヤさん、旧本館事務所内に壁画「ハーベスト」を完成。2012年9月、現コイノニアハウス正面玄関に移設。［**10月**］ 黒羽ロータリークラブの仲立ちを得て、黒羽町立川西中学校との交流会が始まる。（黒羽町は2005年に大田原市と合併するが、交流会行事は市立黒羽中学校に引き継がれ、現在も続く。）［**11月**］ 西日本研修旅行で初めて四国の香川、愛媛、その後広島を訪問。［**12月**］ 郡司昌佳常任理事辞任、名誉理事となる。田嶋篤次、常任理事に就任。男子寮完成（20室40人収容）。

1978　［3月］「東南アジア農村指導者養成所」は名称を変更し「アジア農村指導者養成専門学校」となる。［5月］　茨城県八郷町の「たまごの会」（有機農業、平飼養鶏、残飯養豚を実施する消費者運動体）との交流始まる。

1979　［10月］　ケオ・インタボンサ作物担当として着任。同氏家族は日本政府が正式に受け入れた最初のラオス難民家族の就職第1号である。

1980　［4月］　ニンジン・ジャムの加工・販売を開始。［7月］　北日本研修旅行始まる（毎年10日間から2週間弱の日程で'92年まで継続）。［11月］　国際理解教育を推進する県立宇都宮北高との交歓会が始まる。（現在も継続中。）

1981　［5月］　乳牛（ジャージー種）を秋田県の土田牧場より導入。牛乳を食堂に提供。［7月］　人のいのちを大切にする生活、「食生活・フードライフ」を研修の中心にすえることを広報紙『アジアの土』に発表。［10月］　西日本研修旅行の中で「アジア青年協力奉仕セミナー」（京都・関西セミナーハウス）に参加。

1982　［2月］　北米アジア学院後援会「アメリカン・フレンズ・オブ・ARI (AFARI)」発足。［4月］　インターン2人の受け入れ（聖母訪問会 Sr. パスカリス河島、Sr. パウラ米田）。［7月］　埼玉県小川町の霜里農場（有機農家金子美登主宰）との交流が始まる。28日から31日まで、アジア学院主催の第1回アジアセミナー・ワークキャンプを開催。主題「共に生きるために～食べ物を考える」、26人が参加。［8月］　日本聖公会・ナスグループの協力（設計・施工・費用）で野外集会場コロシアム完成（座席数250）。［10月］　第10回収穫感謝祭にて、「アジア学院エコシステム（環境保全システム）委員会アピール」を『アジアの土』にて発表。

朝食を一緒に食べる（1974年）

福本治夫牧師

1927～2000

アジア学院設立の10年以上も前、農村伝道神学校に内地留学していた福本治夫先生は、そこで高見敏弘東南アジア農村指導者養成所所長と初めて出会う。以来、日本基督教団西那須野教会牧師として多忙な日々を送りながら、アジア学院の創設とその後の学院経営に多大な功績を残された。

上記養成所の初代所長であった木俣敏氏が福本牧師の神学校における指導教授であったこと、農村伝道神学校の校長や日本基督教団議長、さらに日本キリスト教協議会（NCC）議長も務められた武藤健氏が、戦後間もない一時期、西那須野教会牧師を兼務されていたこと、などを今振り返ると、アジア学院創設に至るキーパーソンのつながりの一端を垣間見ることができる。

教会ならびに幼稚園での仕事と同時に、様々なエキュメニカルな活動にも熱心に参加されていた。アジアキリスト者青年大会（1964年、フィリピン）やアジア農村生活研究会などに参加する傍ら、日本キリスト教団関東教区栃木地区が企画する台湾や韓国の教会との相互交流にも積極的に関わってこられた。

栃木県北を拠点に農機具販売を手掛けておられた郡司昌佳氏と共に福本先生は、農村指導者養成所時代から多くの研修生の現地実習を手配して下さっていた。

西那須野教会史によると1972年4月、当時の高見所長が福本先生を訪ね、アジア学院設立に関して相談している。そして同年9月、福本先生は地元の郡司氏等と協力の上、6ヘクタール余の現在地の売買契約締結までを大変なご苦労の末成し遂げられた。そしてその時点から半年余り、土地取得費、建物建設費、学校運営費等々、学院創設全般に係る資金調達と法人申請等々の実務に先生は全力を注がれた。創立後も続いたアジア学院の財政的困難の中で、福本先生は永く財務担当理事としてその重責を全うされた。西那須野教会員は、牧師のこうしたコミットメントを良く理解され、協力を惜しまれなかった。そしてその歴史は現在も脈々と続いている。

1983 ［2月］ インド卒業生ワークショップを開催し、研修プログラムの評価等を行う。この年以降、各国で同趣旨のワークショップを開催。［4月］ 日本青年奉仕協会 (JYVA) 主催の「1年間ボランティア」派遣先となる。［8月］ 三浦照男（アジア学院第1期卒業生）新任。福島県船引町の村上農場（村上周平主宰）で夏期実習研修としての有機農業研修始まる。［9月］ 食堂棟全焼（原因不明）。一時、ワークキャンパーの食堂を使用。15日、十周年記念式典を挙行。卒業生2名を含む多数の来賓が海外からも参列。［10月］ 卒業生の活動記録集『Harvest』を出版。富坂クリスチャンセンター主催の「アジア諸教会相互理解のための研修会」に参加。（‘94年まで継続。）

1984 ［2月］ 第1回及び第2回（11月）「卒業生を訪ねる旅」をタイにて実施。【1987年以降、アジア各国のみならず、アフリカ諸国も訪問。現地同窓会の協力を得ながら、ほぼ年1回のペースで実施、現在に至る。2012年の「旅」は第29回目を数える。】［4月］ 新食堂棟（「コイノニア・ハウス」）奉献式。

1985 ［4月］ 文部省奨学生（2年間研修・タイ人留学生）の受け入れが始まる（1988年まで続く）。［6月］ G. デブリーズ、アメリカ合同教会よりアントワネット・ブラウン賞受賞。［7月］ UN 国際青年年に当たり、帯広市農業青年との交流始まる（‘94年まで継続）。［8月］ 栃木県市貝町の有機農場「ウィンドファミリー」（上田正主宰）での研修が始まる。［9月］ 太平洋エキュメニカル宣教会議がアジア学院を会場に開かれる。［10月］ 田中正造大学（事務局長坂原辰男）を訪問。足尾銅山鉱毒問題研修が始まる（現在も継続中）。

1986 ［1月］ 山形県戸沢村より学生が招待され、交流が始まる（現在も継続中）。［6月］ 宇都宮 YMCA との共催で国際農業青年シンポジウムを開催。［9月］「アジア学院のエコシステム（環境保全システム）」

の4年間の取り組みを『アジアの土』誌上で発表。新女子寮（26人収容）奉献式。日本キリスト教婦人矯風会・HELPと協力し、栃木県内在住外国人の電話相談 (TILL) 支援活動に参加。アジア学院後援会 (ARISA) 東京支部発会式ならびに後援会十周年記念集会。［**11月**］ 西日本研修旅行で愛媛の自然農法実践者・福岡正信を初めて訪問。交流が始まる。［**12月**］ 栃木県馬頭町にて育林プロジェクトを開始。

1987 ［**2月**］ 日本キリスト教協議会都市農村宣教委員会（NCC-URM）がアジア学院にてセミナーを開催。［**4月**］ ロータリー米山記念奨学会より、7ヶ国8名の学生が奨学金を受ける。（この年以降2013年度までに、29ヶ国計212人が同奨学会から支援を受けている。日本青年奉仕協会 (JYVA) の「1年間ボランティア」計画で、バングラデシュならびにタイからのボランティアを受け入れる。［**7月**］ 福岡正信・自然農法の学習会をアジア学院で開催。「砂漠に種をまく会」との共催。［**10月**］ 国際協力 NGO センター (JANIC) が設立され、理事長に高見敏弘が就任。［**11月**］ アジア学院後援会会長湯浅恭三、日本キリスト教文化協会より表彰される。

福岡正信氏（中央）とアジア学院学生

1988 ［**3月**］ 高見敏弘、下野県民賞を受賞。［**4月**］ 財団法人アジア農村交流協会（田村嘉應専務理事）が設立される。初年度のこの年、4名の学生が奨学金を受ける。2013年度までに計10ヵ国102名の奨学生が支援を受ける。［**7月**］ アジア学院、国際交流の推進尽力により外務大臣表彰を受ける。

1989 ［**7月**］ 山形県長井市で開催された国際百姓会議にアジア学院生が参加したことをきっかけに、置賜百姓交流会との交流が始まる。［**9月**］ 学生キリスト教友愛会 (SCF) が隣接地に「那須セミナーハウス」を建設。『公害原論』の宇井純を講師に公開講演会「地域と共に生き、地域から学ぶ～水が危ない」を開催。

1990 ［3月］ 高見敏弘校長退任。後任にグレッチェン・デブリーズ（4月就任）。国際協力 NGO センター(JANIC) の協力を得て「炭焼きプロジェクト」開始。
［6月］ 入国管理法一部改訂により外国人学生の入国手続きが困難となる。

1991 ［4月］ 炭焼窯（野州窯）完成、炭焼プロジェクトを本格的に始める。燃料の他、主に土壌改良剤として活用。［6月］ G・デブリーズ、UCBWM の宣教師を退任、ボランティアとして仕事を継続。

1992 ［3月］ G・デブリーズ校長退任。後任に菊地創（4月就任）。［4月］ 開校当初から研修ならびに共同体形成の一環として実施してきた、学生職員全員参加による朝夕の定例作業（畑仕事、家畜の世話、校舎の清掃など）の時間を約3時間に延長。［9月］ 当学院を会場に NGO 活動を推進する JANIC が NGO の人材育成に関する国際会議を開催。［11月］ 西日本研修旅行で初めて熊本いのちと土を考える会、菊池養生園、水俣病歴史考証館、市立水俣病資料館、反農薬水俣地区生産者連合等訪問。（熊本訪問は現在も続く。）

「収穫感謝の日」でエスニック料理を味わう（1990年）

村上周平さん

1923～2006

多くの韓国人キリスト者たちが、1960年代、日本の無教会の方々との交流を深めていた。村上周平さんはその無教会の伝統に立つ全国愛農会が主催する聖書研究会に参加していて、ある年そこで、農村伝道神学校から参加していた韓国人牧師厳泰成さん（別掲参照）に出会っている。実にアジア学院が開設される前のことだ。以来、二人のつながりは生涯続くこととなる。

村上さんは全国的にも有名なエゴマ栽培農家だが、厳牧師との交流から生まれたアイデアであった。アジア学院のエゴマ栽培はここにルーツがある。

何事にも積極的で、善いと思ったことはすぐ実行する性格の村上さんではあったが、有機農業により安全な食べ物を作るという途は決して平坦なものではなかった。戦後の高度経済成長期には全国の農家の例にもれず、村上夫妻も化学肥料と農薬による近代農法を選び、稲作と多数羽養鶏を実践していた。しかしその結果、二人ともひどく健康を害してしまった。幸いなことに、日本における有機農業の先駆者でもある全国愛農会々員との交わりを通じ、夫妻はきわめて早い時期に有機農法を取り入れている。

アジア学院発足当初から村上農場は学生の現地研修そして農家実習を引き受けてくださった。そうした長年の交流・指導の中から、アジア学院の有機農法も様々な刺激を受けてきた。例えば、今でも「ボカシ・Bokashi」がアジア学院農場での共通語のひとつになっている。鶏糞などを利用した発酵肥料なのだが、元をたどれば村上農場から学んだ知識・技術である。訪問するたび村上さんは経験に裏打ちされた有機農法の理論と実践、有機栽培による野菜の安全性、とりわけそのおいしさについて、アジア学院からの実習生を前に雄弁に語られた。同時に、村上さんは必ず、神様の創造の世界と信仰について語ることを忘れなかった。それは、何度も担当していただいた学院における座学の特別講義の時もまったく同じで、「日本の有機農家は哲学者か?」と学生をうならせた。

1993 ［4月］ 20年目を迎え農場は適正技術を用いてエネルギーの自給、水の有効利用、キャンパス内の育林への取り組みを開始。養魚プロジェクト始まる。［10月］ 創立20周年記念式典。20周年記念記録集『共に生きるために』ならびに卒業生活動記録『Harvest II』（英文）を出版。また東京にて創立20周年を記念してパネル・ディスカッション―卒業生と語り合う集い―を開催。

1994 ［3月］ 高見敏弘、理事長ならびに校長代行を退任。［4月］ 中嶋正昭新理事長に就任。校長代行長嶋清。［6月］ 植田仁太郎校長就任。高見敏弘、吉川英治賞受賞。［8月］ 北日本研修旅行に代わり、福島県と山形県を舞台に「農家及び農村地域研修」を開始。

1995 ［2月］ アジア学院企画の「持続可能な農業セミナー」をタイのチェンマイで開催。タイ、フィリピン、インド、マレーシアの卒業生など25名が参加。同企画第2回目を12月に同じくチェンマイで開催。［5月］ 学院を会場に環境セミナーを主催。生物、水、森林などをテーマとし、12月までに6回開催。［12月］ フィリピンの卒業生数名が所属する聖オーガスティン女子修道会がアジア学院の協力を得てネグロス島にサンタリータ・トレーニングセンターを創設。翌'96年から、ネグロス研修（12月に卒業した後、希望者を対象にした現地研修）の拠点として、また、'97年からは高校生ワークキャンプの場としても活用されることに。

1996 ［6月］ 高見敏弘著『土とともに生きる』出版（日本基督教団出版局から）。［8月］ 高見敏弘、マグサイサイ国際理解賞を受賞。［10月］ 中嶋正昭理事長ご逝去。［11月］ 趙漢珪講師による特別講演、「韓国自然農業の考え方と実際」を開催。［12月］ サンタリータ・トレーニングセンターにて第1回ネグロス研修を実施。96年度卒業生18名が参加。

1997 ［4月］ 日本人研究科生(Graduate Intern: GI)制度始まる。96年度卒業生1名が入学。カリキュラム編成に改

良を加える。〈座学講義〉・春学期:「持続可能な農業」、「調査法と報告書作成指導」・夏学期:「農村調査研究」・秋学期:「農村開発と共同体組織」、「小規模農村開発プロジェクト」、また、年間を通して「開発問題」、「農村指導者論」、〈農業技術研修〉　農作業ローテーション制に代わり、学生を「野菜・作物」、「畜産」、「環境・適正技術」の班に分け、グループワークとして長期に継続する。［**7月**］　新理事長に古屋安雄（ICU教会牧師）が就任。［**8月**］　第1回ネグロス高校生ワークキャンプを開催。生徒20名、教師1名が参加。これ以降2005年までに計7回開催。

1998　［**4月**］　栃木県経済同友会より社会貢献活動特別賞を受賞。高見敏弘、名誉学院長に。［**11月**］「環境保全・適正技術」プロジェクトチームによる生活雑排水処理システム完成。処理水を溜池での養魚に利用。
［**12月**］　国際農林業協力協会との共催で第1回“NGOワーカー養成基礎セミナー「環境と地域開発」開催。これ以降、2008年の第9回まで続く。

1999　［**2月**］　アジア学院後援会が特別企画「フィリピン農村体験ツアー」を実施。［**7月**］　第2回“NGOワーカー養成基礎セミナー”開催。講師に福岡正信。［**12月**］　常陸宮ご夫妻来校。

2000　［**5月**］　G・デブリース、アジア学院での活動を終え、アメリカに帰国。［**6月**］　『アジアの土』第100号発行。福本治夫元理事ご逝去。
［**11月**］　南アジア卒業生のミレニアム・カンファレンス「平和会議」がインド、ケララ州で開催される（庭野平和財団助成プロジェクト）。

2001　［**3月**］　植田仁太郎校長退任。新校長に古屋安雄、また校長代行に三浦照男（ともに4月就任）。
［**9月**］　第13回毎日国際交流賞を受賞。［**11月**］　アジア学院が行っていたネグロスでの地域総合振興事業が、国際協力フェスティバルで「プロジェクト・オブ・ザ・イヤー」に選ばれる。

2002　［**3月**］　古屋安雄校長退任。新校長に前ICU教授田坂興亜が就任（4月から）。［**4月**］　アジア学院首都圏事務所開設（神奈川県藤沢市）。［**11月**］　30周年記念事業として進められていた食品加工棟「マナ・ハウス」が完成（合同メソジスト教会(UMC)支援プロジェクト）。

グレッチェン・デブリース宣教師

1923～2005

アメリカ合同教会の宣教師だったデブリース先生は、1970年から農村伝道神学校で教鞭をとる傍ら、東南アジア農村指導者養成所々長高見敏弘の秘書役も務められた。そして1973年にアジア学院がスタートするとその初期から、引き続き校長秘書の事務を担い、海外の支援教会や学生派遣団体との連絡、卒業生のネットワークづくりなどに貢献された。来日前の、民間会社での秘書経験を生かし、早朝から夜遅くまで、機関銃のように響くタイプライターの音は多くの職員、学生の耳と記憶に残っている。

ある年、ドイツの教会団体が学生10人分相当の支援金を決定してくれたことがある。研修終了後に彼女が送った会計・研修報告が非常にしっかりとしたものであったことから信頼を勝ち得、この団体による支援人数は年ごとに少しずつ増え続けた。そして10年後には25人分の渡航費と奨学金を約束してくれるまでになった。また、高見校長は支援教会･団体へのお礼と報告、加えてさらなる支援要請のため、たびたび海外に出張されたが、それらの活動がスムーズに展開できたのも、彼女の陰の支えがあってのことだった。

そうした多忙さの中にあっても、学生たち、とくに女子学生とは努めて十分な時間を取るようにされていた。いわば母であり、相談役でもあった。デブリース先生の日本語は努力の甲斐なくなかなか上達しなかったが、もしかしたらそれ故に、同じ境遇に置かれた学生たちと心が通じあったのかもしれない。

高見校長の後任として1990年4月から2年間、校長職を務められた。

実に質素な日常生活を送る一方で、文字通り一日のすべてをアジア学院と学生のために惜しまれなかった先生の楽しみのひとつは、歴代の卒業生をその活動現場に訪ねることだった。学院が企画した「卒業生訪問の旅」には何度も参加され、その都度、これまでの研修内容を再評価し、新しい課題を見つけては、帰国後に他の職員と分かち合うことに努められた。

厳泰成牧師（ウン テ ソン）

1932～2012

韓国メソジスト教会の牧師であった厳泰成先生の人生に決定的な影響を与えたのは、農村伝道神学校に開設されていた東南アジアコースでの学びと経験であったと思われる。1966年に卒業、帰国され、生涯を農村教会の形成と地域の発展に捧げられた。時には、いわゆる「牧師」の枠を超えて、信用組合活動の普及と推進等、地域の自立を目指したプロジェクトをいくつも手がけてこられた。どれも経済的に自立したもので、いまだに途上国においては、ともするとリーダーに期待される最大の役割が援助側から財的支援を引き出すこととされる風潮がある中、厳先生の実践はまさに先駆的、革新的モデルであった。

手がけられた数多くの日本との交流プロジェクトの中でも最も長く継続したのは、山形県戸沢村とのそれであった。韓国の教会による活動としては珍しく、教会の伝道を前面に押し出したものではなかった。地域を総合的に巻き込んで、あらゆる層の人々の成長発展に資する事業を目指すもので、戸沢村との交流は現在も続いている。20年余りの間に戸沢村からは100回以上の訪韓を記録している。

最上川河畔にある鶴岡街道の高台に建てられた高麗館は、この交流の歴史のシンボルである。2012年6月、戸沢村国際交流協会が厳先生の活動拠点である旧松鶴村（現：堤川市の一部）を訪れている。一行には、協会々長、戸沢村々長、観光協会々長らが参加されていた。

それから半年後の2012年11月、厳先生は逝去された。生前は卒業生の一人として1990年頃からアジア学院評議員も務められた。

（厳先生の松鶴教会々員である潘炯旭（バン・ヒョンウク）さんと鄭鎮海（チュン・ジン ヘ）さん夫妻は先生の推薦を得て、共に1983年にアジア学院で研修を積んでいる。卒業・帰国後、夫妻は恩師の意を継いでいくつかの農村教会で働いた。その豊かな経験と実績が評価されて、2004年、韓国メソジスト教会派遣の宣教師として再び来日し、現在もアジア学院で後進の指導に当たっている。）

2003 ［**4月**］ Interblend 財団デザインの新しいロゴ・マークが寄贈され、使用を開始。［**10月**］ 30周年記念シンポジウム、「飢えからの解放～有機農業の課題と展望」開催。

2004 ［**3月**］ 研修プログラムの基本コンセプトの見直しを行う。特に「内発的発展」を基本テーマとして、次のような改革を実施した。(A) コンサルテーションの充実 (B) 学生主導の討論の授業法を導入 (C) 参加型手法の充実 (D) 評価技術の向上 (E) 自分自身や自分のコミュニティーを肯定的にとらえ直し、将来に向けた新しい目標設定に基づく卒論の完成。［**6月**］ フィリピン AID 財団の指導・協力を得て、女子寮南側山林に、雨水をためるタンクと無動力揚水ラムポンプを設置。

［**7月**］ JICA 草の根技術協力事業の助成を受け、インドのアラハバードにて「持続可能な環境保全型複合農業の構築と草の根パイロット事業プロジェクト」を実施（2007年6月まで）。三浦照男元職員が現地にて関わる。

2005 ［**1月**］ この年から日本人学生のみがネグロス研修に参加することに。［**2月**］ G・デブリース、故郷のネブラスカ州にてご逝去。［**6月**］ 青年海外協力隊 (JOCV) の技術補完研修受け入れ始まる（年数回、各約3週間の日程で、現在も発展的に継続中）。［**7月**］ 国際協力事業団 (JICA) が招聘した各国の地方公務員等を対象とする委託短期研修プログラムの受け入れ始まる。

2006 ［**3月**］ 田坂興亜校長退任。新校長に野崎威三男（4月就任）。［**9月**］ 天皇皇后両陛下来校。［**10月**］ アジア太平洋フォーラム・淡路会議第5回井植記念「アジア太平洋文化賞」を受賞。

2007 ［**1月**］ ネグロス島のサンタリータ研修所で開所10周年記念式典が行われ、2006年度日本人卒業生と一般公募の参加者計12名が参列。式典の後、スタディーツアーを実施。［**9月**］ ユネスコ・アジア文化センター国際交流相互理解事業として、平和シンポジウム「土からの平和」を学院で開催。［**10月**］ 35周年記念事業の一環で高見敏弘著『土とともに生きる』の復刻版を出版。

2008 ［**4月**］ 日本エキュメニカル協会より第14回功労賞を受賞。［**6月**］「創立40周年記念募金」発起人会発足式（東京、丸ビル）。

2009 ［**2月**］ 2008年度朝日社会福祉賞を受賞。［**3月**］ 野崎威三男校長退任。新校長に大津健一（4月就任）。［**11月**］ 平和シンポジウム「土からの平和 II」を開催。後援会主催チャリティーコンサートを開催。明治学院白金チャペルにて。

2010 ［**3月**］ 研修における基本コンセプトの見直しを行い、以下の10項目に改定した。1)「共に生きるために」の思想 2）サーバント・リーダーシップ 3）フードライフ 4）自然と共に生きるということ 5）ローカライゼーション 6）コミュニティによる学び 7）人と共に生きるための技術 8）労働の尊厳 9）霊的成長 10）学びの姿勢 ［**9月**］ 後援会主催「ピースコンサート・ピースアートポスター展」を黒磯文化会館にて開催。650名が来場。

2011 ［**1月**］「卒業生を訪ねる旅」の折などを利用して各地でアジア学院卒業生の同窓会が開かれてきたが、この年は特に活発で、1月にスリランカ、2月にフィリピンとネパール、3月に東北インドのマニプール / ナガランド州で同窓生が集まった。ネパールを除く3ヶ所にそれぞれ職員を派遣。［**3月**］ 11日午後、東日本大震災発生。那須塩原市での震度は6弱。本館、コイノニアハウス、女子寮、男子寮などに多大な被害が発生。キャンパス内は停電し、水道管破裂のため断水。学生は既に前年の12月に全員卒業・帰国しており、この日キャンパスにいたのは職員とボランティアなど30名。12日、学院緊急事務所を隣接の那須セミナーハウスに設置し業務に当たる。14日、福島第一原発での水素爆発によるヨウ素、セシウムを学院内でも観測。18日、『アジアの土』号外を発行し、被害状況の報告と緊急復旧活動のため目標額500万円の募金を訴える。31日、2011年度研修の実施場所に関し、東京近郊にある農村伝道神学校（農伝）の常務理事会に対し、3か月間以内の一時避難の形で、農伝施設を借りたい旨正式に要請。

1週間後の4月6日、農伝は快く受け入れを表明。［**5月**］ 2日、農伝にて新学期を開始。7月末まで滞在。この間職員他は、農伝における研修担当と学院での管理事務担当に分かれる。14日、アジア学院で新農業研修棟（ファーム・ショップ）奉献式ならびに第39回入学式を挙行。本科生20名、研究科生 (TA) 1名。［**8月**］ 3年前に開始した「40周年記念募金」を打ち切り、新たに12月から、「災害復興募金」（目標額5億3千万円）の実施を理事会で決議。［**11月**］ 例年より2週間早めて卒業式を挙行。

2012 ［**1月**］ 日本キリスト教協議会 (NCC) エキュメニカル震災対策室（JEDRO）から放射能測定器の寄贈を受け、「アジア学院ベクレルセンター」を那須セミナーハウスに開設。一般向け食品放射能計測サービスを開始。運営には那須野ヶ原の放射能汚染を考える住民の会 (NRARP) 会員が全面的に協力。［**4月**］ 第40回入学式を那須セミナー・ハウスにて行う。16カ国から本科生27名、研究科生 (GI) 1名、TA 2名の合計30名。［**6月**］ アジア学院後援会 (ARISA) 総会にて組織改正案が承認され、「アジア学院サポーターの会 (ARISA)」と改称。丹羽章理事長急逝。大津健一校長が新理事長に就任（兼任）。［**9月**］ “新コイノニア棟・教室棟奉献式～故丹羽章前理事長を覚えて”を挙行。［**12月**］ 第40回卒業式を新コイノニア棟にて挙行。

2013 【東日本大震災直後から 2013 年 9 月までの間に、アジア学院災害復興の取組に対して国内の教会・団体、個人はもとより、海外の教会・団体から大きな支援を受けた。】［**4月**］ 第41回入学式。32名が入学（内TA が1名）。［**7月**］ 新男子寮（2棟で43人収容）ならびに新豚舎が完成。奉献式を行う。［**9月**］ 16日、創立40周年記念式典・シンポジウム（16日～17日）を挙行。統一テーマは「草の根における変革～農村指導者と共に歩む40年」。来賓、歴代卒業生多数が参加。

丹羽章先生

1935～2012

丹羽章さんが獨協医科大学教授のとき、アジア学院に来たアフリカからの学生の風土病について高見敏弘校長（当時）から丹羽さんに問い合わせたのが最初のアジア学院との出会いでした。その後アジア学院理事に就任し、2006年から2012年まで2期にわたって学院理事長を引き受けられました。また、この間社会福祉法人一麦会の理事長を兼任しておられましたが、どちらの働きにも手を抜かれることはありませんでした。理事長在任中は、特にアジア学院財政の立て直しに全力を注がれ、理事会には自身で作成された財務諸表を提出するなど、財務に明るい理事長でした。また、収入の多くを寄付に頼るだけでなく、アジア学院の自助努力を通して収入の道を得る方法として法人の中に補助活動部を設置し、アジア学院の農作物を使用した食品加工販売を推し進められました。さらに、機会あるごとにご友人にアジア学院の働きと使命を伝えて、新たな支援者を多数紹介してくださいました。

丹羽さんは、医学博士で獨協医科大学名誉教授の肩書きを持ち、日本の社会福祉事業の先駆者留岡幸助の孫に当たられる方でしたが、人々には気さくに接する人柄でした。時々興奮されると一気に話をされましたが、それ以外は穏やかな話しぶりでした。アジア学院の働きの基礎には、日本の戦争責任がある、と強調された理事長でもありました。

東日本大震災後、ほとんどアジア学院に来ない日はないと言えるほど、車で約2時間かかる道のりを自身で運転して毎日のように来て、震災復興の陣頭指揮を執られました。震災からの復興まで理事長の責任をとるとの思いの中で3期目理事長就任を考えておられた矢先の2012年6月25日、突然神のみもとに召されました。76歳でした。

アジア学院の卒業生 (1241名)

* は亡くなった卒業生

東南アジア農村指導者養成所　卒業生 (116名)

アジア学院は、東南アジア農村指導者養成所時代（1960−1972）の卒業生116名を
アジア学院卒業生として数えています。ここには短期研修生を含めた（125名の）名前を載せました。

1960 **韓国** Oh Seh-chul / Cho Young-hie **日本** Michiko Tonegawa **台湾** Ming-Fang Hsu / Chin-Fong Hoang / Cheng-Yi Yu / Shy-Ming Huang

1961 **韓国** Kei Chang-bong* / Ahn Hee-kuk **パプアニューギニア** Dick Bernardus Rumbino* **フィリピン** Camilo T. Toledo* / Baltazar H. Rosales* / Narciso Quimba Ibarra* **台湾** Hsin-En Chao / Chen-Ken Chang / Hsin-Chi Lin **タイ** Charoen Suttasarn*

1962 **ミャンマー** Saw Eddie Loo **フィリピン** Artemio T. Auste* **マレーシア** Ling-Kwong Lee **台湾** Jong-Siong Chuo / Kwei-Song Chung **タイ** Somboon Daengruan*

1963 **インドネシア** Hadarian A. Pasaribu **韓国** Moon Yong-oh / Lee Dou-syub **フィリピン** Cesario T. Alegado / Leodegario A. Milambling **台湾** Chiou-Tsai Hwang / Maw-Hsing Say **タイ** Ampai Glinhawn* / Boonsri Glinhawn

1964 **インド** Easow Mar (V. T. Koshy)* **韓国** Park Keun-won / Lee Chang-bok / Kim Mal-joon **フィリピン** Jose G. Mejica* / Ramona D. Loyola* / Jose L. Ibalarrosa* **タイ** Charul Uprakham* / Mien Pongnoi*

1965 **インド** Budh Singh* / Christ M. S. Kandulna **韓国** Lee Jong-sung **マレーシア** Joshua Bunsu **フィリピン** Alejandro H. Dugaduga* / Pedro Trinidad **サモア** Risatisone Ete / Fereni Ete **台湾** Yu-Tian Lin / Jih-Hsin Hsu **タイ** Somboon Bromwongkwa* / Nira Kamhangsong* / Boonsong Arkniyar* / Subhan Doungnate

1966 **インド** Narsingh Nagu **韓国** Choi Woo-keun / Um Tai-sung* / Kim Jong-ill **フィリピン** A. Juan B. Sicwaten* / Leon Lorico* **台湾** Wen Jyh Shyu / Hok-Leong Chhia **タイ** Prakob Suwannagul* / Jumnian Suwannagul

1967 **中国（香港）** Philip (Kuri Shin) Sun **インド** Haman Lakra* **フィリピン** Ofelia Bartolome / Nathaniel Espantar **台湾** Yuh-Bo Hwang **タイ** Busitt Duangkaomai

1968 **バングラデシュ（当時東パキスタン）** Paul Munshi **ミクロネシア連邦** Madhilde Epel* / Linter Epel **韓国** Park Jong-soo **タイ** Tanorm Srisuwan* / Samran Koangwaen / Wilai Tipakorn

1969 **インド** Jacket B. Emmanuel / Emmanuel S. Marandi / George E. Ratnam **インドネシア** Melkias B. Liufeto **韓国** Cho Wan-kul **タイ** Pipat Chaisurin* / Tanorm Weerapanta* / Prapan Sae Ho Hoprayun

1970 **インド** Abiya Pasad Tandi* / Bomraspet Manikya Rao / Reuben Senapati / Tukeram S. Kamble **韓国** Nam Won-Sik / Choi Byong-Chil **マレーシア** Peter K. Gani **フィリピン** Urbano Lamoste* / Jorge E. Rubio **台湾** Ling-Yueh Pan

1971 **インド** Niranjan Ekka / Benjamin Asai* / R. Moses Premanandam / Sushil Kumar Baria **日本** 長嶋 清 **韓国** Kim Dai-sik / Yoon Jung-man **マレーシア** Chon Kong Kang / Kuan Leong Loh **フィリピン** David O. Ubay / Maximo B. Dizon **タイ** Sila Wangchai* / Taratorn Sirimontaporn

1972 **インド** Simon Gnanasundaramani* / David B. Singh / Robert M. Singh **日本** 酒井 宏二 * **韓国** Cho Moon-ki* / Kim Eun-kyu **マレーシア** Hee Sing Chong / Lai Ching Kwan **ネパール** Renuka Bala Neupane* / Laxmi Prasad Neupane **スリランカ** T. Kirupanandarajah **タイ** Songdej Kusawadee* / Kajorn Chawyong / Paitoon Seedangchun / Klaus Prinz **ベトナム** Trong Quy Truong

1960–1972

アジア学院　卒業生

アジア農村指導者養成専門学校　本科生 (1049名)

以下の本科卒業生リスト(1973-2012)は、アジア農村指導者養成専門学校所定の研修を終了し、
卒業証書を授与された者のみを含みます。短期研修生は含みません。

1973-2012 graduates

rural leaders training

1973 **バングラデシュ** Augustine Talukdar / Ruben Toppo / Jerome Sardar **インド** Kaleshwar Kachhap **日本** 三浦 照男 / 大岡 興 **韓国** Lee Bock-hee / Lee Hyung-kon* **マレーシア** Thomas Thoung / Stanley G. Muling / William Mapan **タイ** Chana Karawanon*

1974 **カンボジア** In Yuthea **ラオス** Kengchanh Phongsavang **インド** Pichai Satyasurya / Esther Singh / Michael J. Marandi / Subhash J. Barik / Kollory Manuel **インドネシア** Manja Kondamesa* / Jacob J. Tuhumury **韓国** You Calm-young

1975 **バングラデシュ** Sunil Kumar Talkder*/ Bivash Singha **インド** Konathu Joseph John* / Sona Wakoba Gaikwad* / Ignacio Almeida **マレーシア** Margarete Anto / Bah Chong-weh / Bah Helah **フィリピン** Angelina Bisuna **タイ** Chandee Chairatana* / Suchitra Buntusarnee

1976 **ガーナ** John E. Ackeifi* **バングラデシュ** Daniel T. Baroi* / David D. Dewri / Mildred Sardar Anwar / Earnest Amrita Lal Roy* / Latika Baroi **フィジー** Mikili Livani **インド** Simeon C. Vaz / Virginia P. Solanki / Ardhendu S. Chatterjee / Ambuja E. Kasim / Mary Pershad **日本** 葛原 直満 **マレーシア** Fabian Saging / Chong Chong Bing **ナイジェリア** Sidney Osuji **スリランカ** Bahula Perera Weera-wardana* / Dorothy Peiris **タイ** Joseph R. Tangsurakit / Jinda Laklam / Amporn Danpongping

1977 **バングラデシュ** Amita Baroi / Sunil K. Halder / Paul Biswas **インド** Vemmelil K. Rachelamma / Russell Thompson Wells /Gnanasigamoni W. Devanbu / Thomas Varghese / Mehar Singh*/ Salomi S. Singh **韓国** Lee In-shir **パキスタン** Sammuel Naseem* / Dorothy Harrion*/ Ishaq M. Gill **フィリピン** A. Lucila Mar Toriaga / Jonathan Catedral / Visitacion Precioso / Joan Abonero **スリランカ** Palitha Welikala / D. A. Ariyadasa / S. G. De Alwis / N. J. Perera / Lakshman Perera / Indrani Perera Wijesinghe **タイ** Wichian Charoensap

1978 **バングラデシュ** Bikash Adhikary / Sujit K. Baroi / Helen Howlader / David Sarker **リベリア** Roye Dixon Carter* / Morris Fofana **ガーナ** Nathaniel Dodd **インド** Madhuri Mukuhty / Alexander Mathew / Yeshawant Kamble / Sunchu Devadass / Dhormo-joya Asha / Mukul Rai / P. Mariamma Thomas **インドネシア** Adipidekso Boas / Selamat Barus **日本** 矢野 正貴 / 村田 収 **韓国** Ok Yong-yoon / Lee Joon-hee **ネパール** Prabhu Dan Gurung **パキスタン** Reuben Haq / Naheed Suleman **フィリピン** Roberto Abao / Luzaminda Padlo* / Adelaida B. Baesa / Julia Defeo **スリランカ** Malini C. Godagama* / S. Alfred Cherubim / Lakprabha Panditharatne **タイ** Suradej Chaiwongkeo / Srisuk Daranond / Rawiwan Song-saeng / Sukhum Srisang **インド** Prabhat Failbus

1979 **バングラデシュ** Aruna Adhikari / Noel T. Adhikary / Symon P. Adhikary / James Ruran **ガーナ** Comfort Love Owusu-Kena **インド** Vitoi K. Sema / Kunnel J. Jacob / K. V. Sosamma Thomas / K. V. Thomas / U. S. Samuel / Peter O. Isaac / Jayashree Biswas **インドネシア** Supandri C. Paulus / Jasahliaman Damanik / Timbul E. Rajagoekgoek* **日本** 佐藤 正喜 **リベリア** Esther M. Innis / Blanche H. Richards **マレーシア** Wilson Sigai **フィリピン** Carolina L. Salido / Beulah P. Bautista **スリランカ** Samuel E. Stembo / Bernadine P. David / Leelawathie Withanage / Mahatun K. Jayasinghe / Kshanti T. Alles **タイ** Saiphon Hinpang / Manun M. Nantawisut / Nuntawee Charoensap / Plernpit Narmwong

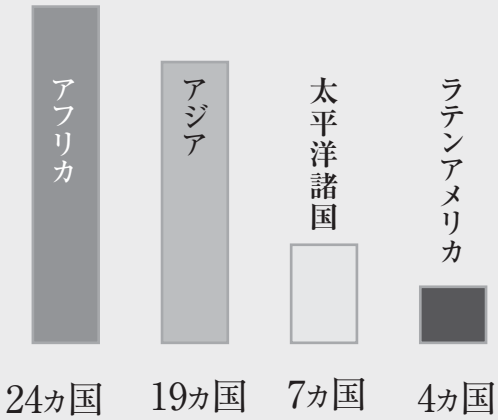
1980 **バングラデシュ** Lucy A. Baroi / Anthony Palma / Mono-rama Mitra / Jessie A. Guha / Sree R. Sarkar **ガーナ** Robert C. Erzuah **インド** Hemlata Prakash / Sunirmal Karmakar* / Ruy Mascarenhas / V. S. Mayonsing / Ivan Clifford **インドネシア** Mochamad Syachrir M. Z. **日本** 岡村 恵仁 **韓国** Choi Eun-hee / Min Joung-wong **ナイジェリア** Olusola Odunsi / Ebenezer Odunsi **パキスタン** Nazir Hasrat **フィリピン** Luke B. Busaing / Maria Tacalan / Josabeth Marana **スリランカ** J. Seenithamby Ravindran / Wijendra De Silva **タイ** Sritorn Kunna / Plearnpit Chaininphun / Wangnakon Chaimongkol

1981 **バングラデシュ** Golam M. Chowdbury* **インド** Harish Chotani / Annamma Abraham / D. P. Panmei / Marianus Ekka / Reni K. Jacob / Dorothy Sreenivasa Rao / M. P. Sreenivasa Rao / Teisovilhou Tungoe **インドネシア** Ganti Y. S. Meliala / Albert Foret **韓国** Kim Jung-he* / You Woo-youl **リベリア** Dixon K. Kamue **マレーシア** Esther Tatan **フィリピン** Glorioso Baluntong / Fernando Bagyan **日本** 村上 いづみ **スリランカ** Puji T. Gunawardana / B. Clarence I. Mendis / Cyril Jayasinghe* / J. K. Walter Silva* / Chistina Samuel **台湾** Sheng -an Lin **タイ** Prakit Kumduangdao / Vanda Chiemvisuit / Jerawan Chairatana

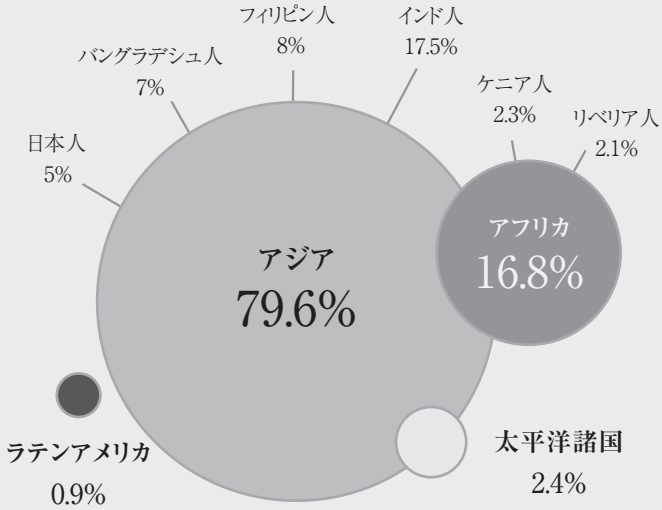
1982 **バングラデシュ** Nirmol Richil / Nirendra Chisim / Sannuam Bawm **スリランカ** Theivendaram Vigneswaran **ガーナ** Agnes A. Ansa **インド** G. Sugirthan Thamby Raj / Daniel Chelladurai / Niechulo Kreo* / Vikiezonuo Kire / Chandra M. S. Bhatia **インドネシア** Amsal Sinuraya / Matius P. Barus **日本** 浅見 祐三 / 浅見 鈴子 **ケニア** Jennifer Kanake / Misheck Kanake **韓国** Choi Jae -wha **リベリア** Peter Demawu **ミャンマー** Saw Mar Gay Gyi **パラオ** Kabidor Taima **パプアニューギニア** Mabia Lepo / Mang Takiseng **フィリピン** Wenceslao Molato / Felix Vergara / Ma. Josephine Maravillas / Juliana Domingo **タイ** Kamol Harichaikul / Anuluck Pilarat **トンガ** Mele Kamitoni

卒業生の出身国と大陸の割合

アジア学院の1049人の
卒業生（本科生）は
54カ国 から来ている。



ほとんどはアジア人である。



1983 **バングラデシュ** Md. Naziullah / Paul Desai **インド** I. S. M. Selvaraj / Sarah Mao / Vilarheingunuo Neinuo Kire / Eleanor Abraham / Peter Devanbu **インドネシア** Jason Ronsumbre / Sahat Sihombing / Eddy Susanto / Yohanis Tandung **日本** 山下純男 **韓国** Ban Hyung-wook / Chung Jeen-hae / Park Nam-sik **リベリア** Nimley Sieh **フィリピン** Leopoldo Naive / Anee Y. Guloy / Nepthalie Bascoguin **スリランカ** Loyola Ponnavila / Anselm Fernando / John P. Illesinghe* **タイ** Tsong Sri In Keau* / Uma Chareonsap / Ruenchai Noy Pombejra / Sriporn Sadatoo **ネパール** Phaud Thapa **インド** Mathew George **ザンビア** John Nyondo

1984 **バングラデシュ** Luke Gain / Feroza Chowdhury / Dipak K. Ghosh / Anil K. Roy / Sukla Sengupta **ガーナ** Aizake Henry Armoo / David Ashiley **インド** Purushottam B. Rathod / Vingozu Thapru / Ellen Konyak Phamna / Shanthi Kurien / Y. John Yesupadam / Thuankubui Pamei **インドネシア** Halle Powatu / Octavina Yeblo Lesomar / Fientje Jarangga **トリニダードトバゴ** Lucy Mahabir **ケニア** Augustine Omoto Chitayi **韓国** Park Joon-soon / Bae Ick-hwan / Choi Pu-ock **マレーシア** Hwee Noi Tan **ミャンマー** Kareng Hting Nan / She Ka Wee **ネパール** Krishna Gurung **タイ** Kanyanee Wilaikul **フィリピン** Adeltrudis Lopez, O. S. A.* / Jane S. Sapaen / Ma. Claribelle Jugueta, O. S. A. / Christaine Faculo **シエラレオネ** Amadu Lamin Serry* **スリランカ** Tyronne A. G. Stephen* **タンザニア** Joseph Ngereza **タイ** Sopa Tamachotipong

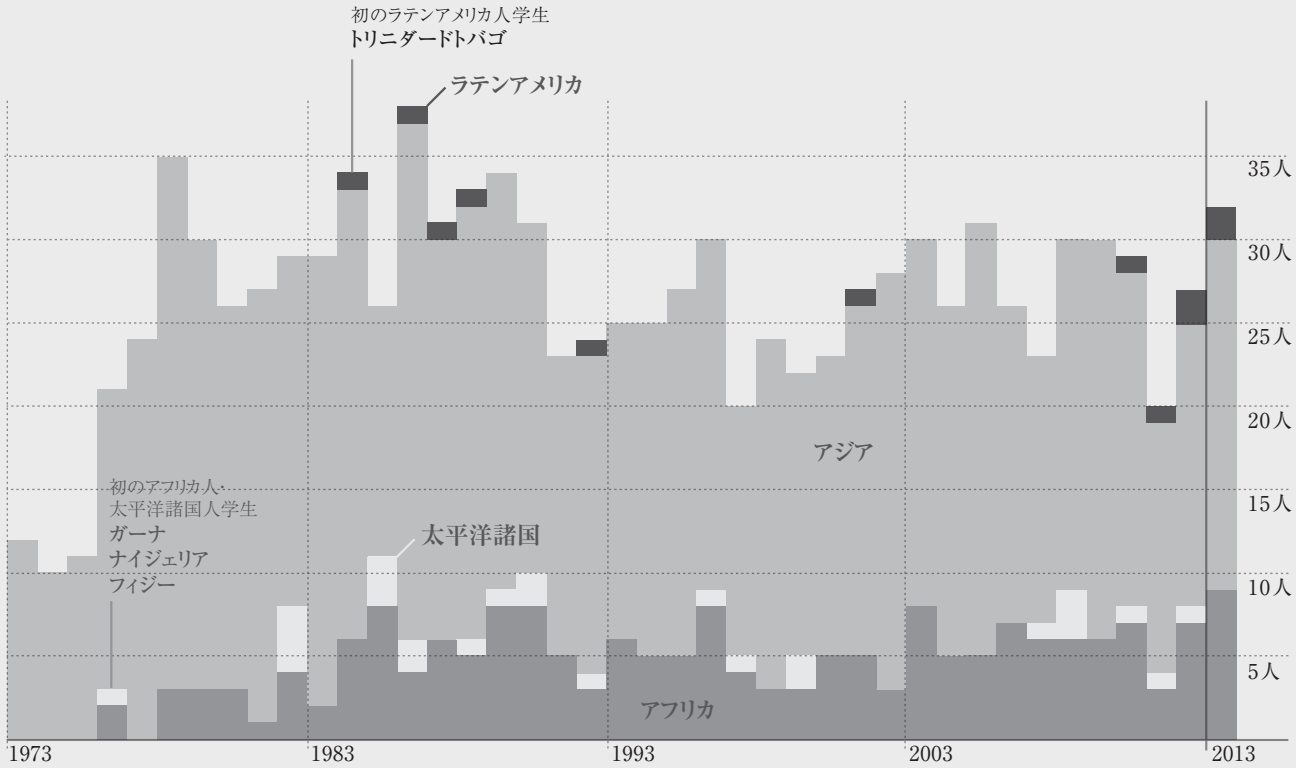
1985 **バングラデシュ** Islam Khan Thariqul Pathan **インド** P. Reddy Kosanam / A. Hongsha Maring / Techa M. Ronglo / Ahiam Panmei / Abraham Dharmakan **インドネシア** Firman P. Ginting **ケニア** Benson Kithingji Bujanga* **韓国** Yun Suk-yong / Kim Kwang-shik **リベリア** Winston Carter **ミャンマー** L. Hkun Gam **フィリピン** Elizabeth Grace P. Francisco / Luis Arueza **ソロモン諸島** Aaron Bea / M. Korisa Bea **スワジランド** Ephriam Khumalo / Elmon Ndlela **タンザニア** Abdul M. Nchahaga / Mwatumai Mwanjota **タイ** Aiem Sa-Ad Piromchai / Chanhom Jaiyai / Arun Korkaew **ミクロネシア連邦** Youber S. Jossien **ザンビア** Nellah Ngoma Sinoya* / Cephas Sinoya*

1986 **バングラデシュ** Anwar Hussain / Prodip Baidya **エルサルバドル** Luis O. Pleites Moran **フィジー** Sairusi Vasake **インド** Thangkhomang Haokip / Shwelo Thong / Joseph Rodrigues / John Mathew / M. Komuni Mao / Bikash Bori / T. Stephen George **インドネシア** Sasi Saniman **日本** 村上 健 / 矢吹 秀喜 **ケニア** John B. Mugecha Karume **レソト** Simon Moruti P. Ntleu **マレーシア** Asuthas Chinnapan **ミャンマー** Saw Mac Donald* / Naw Paw Wah / Naw Greeta Din / Ding Rin Brang **ネパール** Ram K. Shrestha **フィリピン** Maximo Clave Alvarez, Jr.* / Connie Illastron / Alicia Gibaga / Joel Alviar / Helen Reala / Nieves C. Ebing Apostol **シエラレオネ** Alie P. Tarawally **スリランカ** Leela Liyanapedigedera* **タイ** Paisarn Pilokham / Chatchai Rachasuwan / Napada Ambuprabha / Leam Wongphabood / Wichien Poungporn / Somyot Suparpornhemin **トンガ** Tupou T. Puleiku **ザンビア** Getrude Chifita

1987 **バングラデシュ** Md. Mottalebur Sarker / Md. Abdur Rahim / Nem Kim Bawm / Clara Biswas **インド** Serenah Valui / Yohannan Chacko / Mashangam M. K. / Viswanadham Luther Pullagura / Vekriyi Venyo / Hupuabou Newmei **インドネシア** Markus D. Pabunga **韓国** Mun Sang-bum **ナイジェリア** Emmanuel Cannon Adeyelu **フィリピン** Roberto Dalisay / Era E. Colmo / Reynald Ventura / Gigi Baldovino **エルサルバドル** Israel Espana Olmos **シエラレオネ** Amara Fofanah **スリランカ** T. Selvarajah Kulasekaran* / Sripathy Kandiah / K.A.N.D. Kodisinghe / P.A.J. Menike **スワジランド** Teresa Chiya **タンザニア** Elias Bugoke **タイ** Cherdchai Chaiwong / Sawang Suriya / Narong Tongsuk / Preticia Kamei Tongsuk **ウガンダ** Godfrey Mutesasira **ザンビア** Elizabeth Chishimba

1988 **バングラデシュ** Meers Mankhin / Nasiruddin Ahmed **ブルンジ** Leonard Niyibizi **エルサルバドル** Samuel E. Fuentes Escobar* **インド** Vio Martha Gracy / Ngonamei Sangsethuiliu Chawang / Mohinder Munder Singh / Thomas Mathew / Neisalie Losou / G. Sugantha Kumar / Selvaraj Novle Chandran / Palimutton Chacko / Ajanuo Belho **インドネシア** Frans Albert Mamesah **ケニア** Peter John Machira **韓国** Kim Tae-hyun **リベリア** Jack Seibeh **ネパール** Ganesh B. Gurung **パキスタン** Eliezer Mall **パプアニューギニア** Alicia Toroi **フィリピン** Zosimo Buerano / Cristita Malon Pacatang / Leonila S. elardo O. S. A. / Virginia B. Cervantes O. S. A. / Jaime Ramoran **スリランカ** M. Padma Gamalath* / Srianthie M. Salgado / Asaiththampey Samithamby **タンザニア** Magdalena Leon Shiyyo **タイ** Chomchuan Boonrahong / Suchada Kuanpinij / Rosana Tositrakul **ザンビア** Judith E. Ngoma Chisenga

1989 **スリランカ** Somasundram Balachandran **バングラデシュ** Florence Biswas **フィリピン** Encarnacion Lunario **エチオピア** Solomon Nigatu / Berhane Michael **インド** Bithi Sinharoy / Surender Singh / Awungshi Realson / Awadhesh Mishra / Magimai Kumutha / Sanotla Lamlang Khayaisang / Christopher Solomon Gundala / Joaquim Fernandes / Devairakkam David / Ketholezo Sorunuo / Agnes Vimala **日本** 中山 実 **韓国** Won Hye-dug / Kim Jun-kwon / Um Chin-hi **ネパール** Beena Gurung **モザンビーク** Juliao Daglasse **ナイジェリア** Ayuba Kari Dauda **パプアニューギニア** Dick Gavun Kolai **フィリピン** Jose Carlos Laud Salazar* / Danilo L. Bustamante **シエラレオネ** Elizabeth F. Sesay **南スーダン** Gabriel M. Adam **タンザニア** William Munisi / Rose Gama **タイ** Thanawalai Jaroenjandang* / Jirapan Panwang / Bamrung Kayotha / Arunee Weingsang



1990 **バングラデシュ** Par Nem Kawmlau / Nilima Mazumder **フィジー** Momoivalu Rayacarogo / Paula T. Valevou **ガーナ** Moses Mottey **インド** Mariamma Mathew / Pascal Mary Antony / Ganesh T.P. / Suresh Rajanayagom George / Buonthangmawi Inbuon / Malliga Jeyapandy / Dinesh Murmu **インドネシア** Rusmin Purba **ケニア** Peter Chandi / Jonathan Musango / Mzungu Raphael Ngoma / Rose Alenga **韓国** Lee Jang-seop **マレーシア** John Salomon **ミャンマー** Tuang Khan Kap **フィリピン** Batucan Veronica O. S. B. / Mario Fungo / Renato Miguel / Jose Felino Resol **シエラレオネ** Albert Kamara **スリランカ** Wimal Dissanayake / Radakrishnan Ganeshapillai **タンザニア** Jane Theclar Keto **タイ** Lamai Ponchomchun / Sri-Air Suttisan **ザンビア** Pennah Sautale*

1991 **バングラデシュ** Sikha Roy / Rekha Sarker **エチオピア** Belachew Lemma Tolla **インド** John Yesuadian Manogaran / Tychicus C. Devanand / Marosang Kilang* **インドネシア** Debora Purada Sinaga **日本** 塚本 智 **ケニア** Grace Wambui Mbae **ミャンマー** U Maung Muang / Saw Andrew Chan Poo **ナイジェリ** Oluseglin-Alaba Olaleye **フィリピン** Ester Tacakena Rufino / Julito Verdin Serna / Esperanza Decina **スリランカ** Chandana K. Senaratne / Laxman M. Palamura **台湾** Kuo Hsiung Chiu **タンザニア** Martha Sifuel Shayo **タイ** Smai Sae-Pae / Torsak Prakhamthong / Tadchnune Vayamhasuwan **ザンビア** Susi Roda Nachula

1992 **バングラデシュ** Biswas Kashinath / Mridha Sunil Kumal / Shila Dewri **エルサルバドル** Jose Antonio Serrano **インド** Namridinbou Charenamei / Shanmgam Ayyappan / Zimik Mingthingla **インドネシア** Tandjaja Santje / Sinuhaji Sarjana / Justus Junus Puasa **日本** 迎 衛子 / 今野 覚 **キリバス** Been Toromon **韓国** Shin Hyun-doo / Park Han-sook / Lee Sang-chung **ミャンマー** Dau Gyung **フィリピン** Celito Grona Penos / Loida Galilea Lianora **スリランカ** Seyed S. S. Alalvi / Gamalathge D. G. Kalyanie **タンザニア** Pamfili Satori Masashua **ウガンダ** Elisha Kayabya **ザンビア** Judith Chilufya Lingashi

1993 **ガーナ** Albert Donkor **インド** Hmingthangi Colney / Letkhojang Touthang / S. Pusuhu Theluo / Cherian Markose / Ramchan Philip Ruivah **インドネシア** Wesly Lingga / Anna Christina Pangaribuan / Lerritio Ariati Panjaitan **日本** 武山 智和 / 兼松 明子 **韓国** Park Soon-ja / Lee Ree-aae **ネパール** Ratna Dhungel / Hari Bahadur Shrestha **フィリピン** Rogelio M. Legaspi **シエラレオネ** Idrissa Deen Kamara **スリランカ** A.N. Ganewatta / Upasena Samarasinghe **南アフリカ** Ngcingwana Thembeka **タンザニア** Vincent Yindi Nzuzu / Ninian Zacharia Ssebuyoya **タイ** Panya Mankeb / Lanthom Jonjoubsong **ウガンダ** John Moses Busulwa

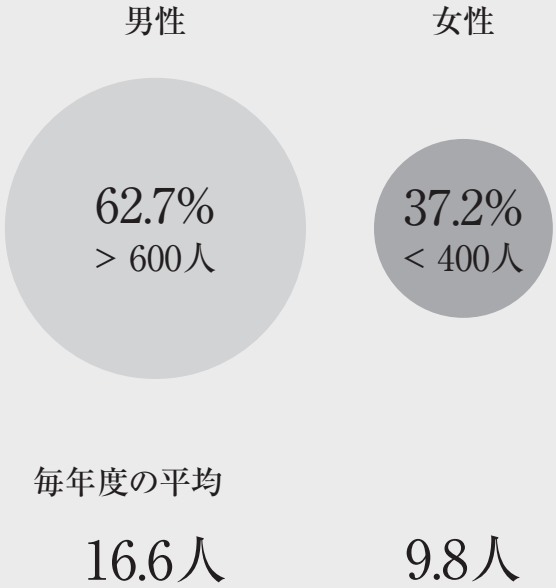
1994 **バングラデシュ** Shyamal Prokash Adhikary / Habib Ahsan / A.K.M. Faziul Huq **インド** Chandraprabha G. Ghargre / Chozhule Kikhi / Lienkhomang Lhoujem / Lily Luisa Nateson / Tabitha Naulak / Medonuo Venyo / Thenmozhi Balakrishanan **インドネシア** Setiawan Sitepu* **ケニア** Mary Juliet Chipa* / Muthoni Madrine Gatumu / Paul Mbuthia Mutune* **ミャンマー** Saw Melvin Eway / Steven Van Bik **ネパール** Bhim Prasad Adhikari **ナイジェリア** Ezekiel Adekunle Adejuwon **パキスタン** Liaqat Ali **フィリピン** Guillermo F. Magbag / Hossana F. Guzman **スリランカ** Dhiunugalge E. K. Mendis / Sarathchandra W. Fernando **タイ** Raungchai Putichan **ウガンダ** Stuart Sempala

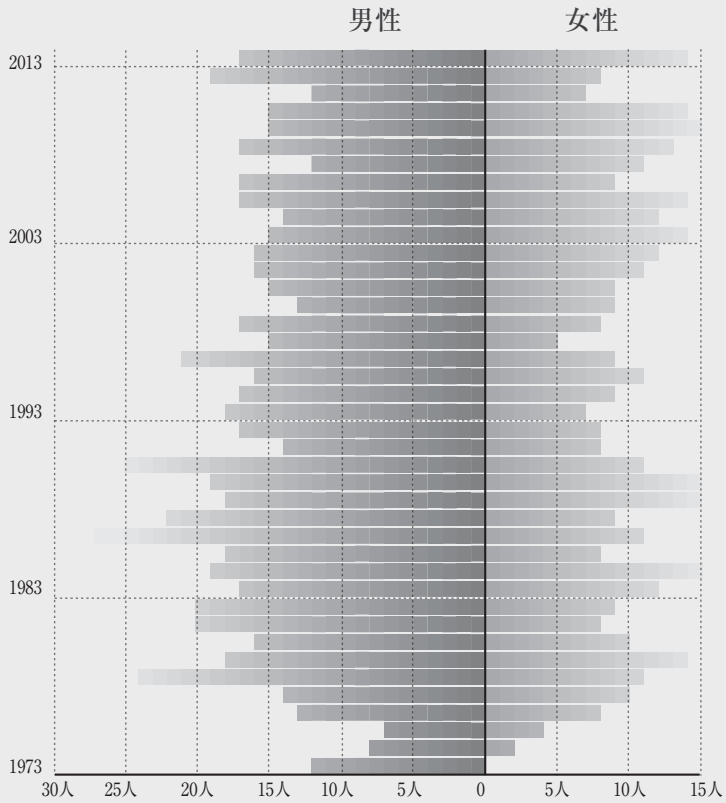
1995 **バングラデシュ** Martin Adhikary / Frida Diaz / Samarendra Mitra **ガーナ** Albert Kofi Adamu **インド** Atouu Kezienuo Sekhose / Kimjalam Touthang / Dal Ngo Sukzo Bawmkhai / Bijan Krishna Mandal / Lanotla Kasar / Bibeka Nanda Biswal / Ningreiwon Angkang **インドネシア** Aatje Carolina Tirie **日本** 土崎 洋子 **ミャンマー** Ela Mee / Kai Seng Maran **ネパール** Krishna Bahadur Thapa / Murari Mohan Adhikari / Sayni Chaudhary **フィリピン** Celenia Luci Jamig / Wilfredo C. Vargas **ギニアビサウ** Amadu Mustafa Jau **シエラレオネ** Abu Bakarr Kamara **スリランカ** M. D. W. G. Jayawardene / Sarath Laksiri Peiris / Nimal Rnandewa Lokuliyana **ウガンダ** William Kigongo* / Elly Kuteesa Wasswa Mwanje

1996 **エチオピア** Sahlesilassie Amare Abebe / Asres Bezuwork Mersha **ガーナ** Augustine Yaw Opoku **インド** Juliet Theresita / Shamanthaka David / Sentiyanger Jamir / Ningtharla Khapudang / Saikhuma Ralte **インドネシア** Gultom Suniarny Tiorman **日本** 今泉 浩明 / 池本 利恵 / 石川 宗郎 / 三浦 映美 / 西島 博 / 花岡 潤 **ケニア** Tabitha Wanjuki Munyi **韓国** Park Kee-yang **マダガスカル** Germain Ranaivosoa **ミャンマー** Thang Hlun **ネパール** Shiva Prasad Dhungel / Juddha Bahadur Thapa **パプアニューギニア** Leon Ban Yall **フィリピン** Tita Garcia Matusalim / Agalyn Diola Salah **スリランカ** U. L. Mohammed Naseer **タンザニア** Rose Shiwala Mattu **タイ** Sanoh Promsawat / Udorn Piewkhaow **ウガンダ** Twesigye Richard Tumusiime **シエラレオネ** Morris Bernard Foday

1997 **ガーナ** Thomas A. Adzey **インド** Lhingnu Touthang / Sunil Singh / Ngulie Rentta / Regimon Markose / Paokame Longpane Lanio / Gwayhunlo Khing Rengma **日本** 里山 隆徳 / 田坂 直之 / 保田 宗忠 / 田頭 信行 **ケニア** Geoffrey M. Musyoka **ミャンマー** Donald Paul **ネパール** Kalpana D. Devkota **ナイジェリア** Joy Onyebuchim Ajima **パプアニューギニア** Gemtausu Rufus Atusamu **フィリピン** Eugene L. Ofo-ob **スリランカ** Bandula Weerasingha / Indunil Paranawithana **ウガンダ** Gorreth Nabasirye*

男女の割合





1998 **インド** Jisaya Tandia / Thongkhup Doungel / Shamim Sylvaster Gamal / Robert Gabriel Machado / Tlau Lalhmingthanga **インドネシア** Mathius Sarangnga / Dina Hendrina Rumsaur* / Benni Maklianto Siregar **日本** 山崎 勝 / 中島 文子 / 加藤 仁司 **ケニア** Charles Okoth Owako* **韓国** Lee Moo-heun / Gie Cheal-suu **レソト** Teboho Fabia Kulati **ミャンマー** Naw Lee Myar **ネパール** Shanta Chaudhary / Ram Hari Devkota / Sushma Pant **フィリピン** Fortunato Rosel Jr. / Jovy Bantang Fodulla **スリランカ** M. Sumanananda Thero / Wiraj Nallaperuma **タンザニア** Regina Bamuhiga

1999 **エチオピア** Getachew Gebeyebu* **インド** Vanlal Muanpuia Bapui / Onkholun Haokip / Enigar Rympiet / Khaling Shanganaidar Tontang **インドネシア** I Gede Mustika **日本** 吉田 麻実子 / 丸谷 純子 / 佐久間 郁 / 打田 喜作 / 山崎 陽子 **ケニア** Moses Ochieng Ochiel **韓国** An Cheonseong / Lee Keun-ju **リベリア** Miatta Tata Roberts **ミャンマー** Saw Borneo / Nang Shwe Htwe / Mai Yuzana Tun Than / U Shi Moa **パキスタン** Gulnaz Sohitra **パプアニューギニア** Davidson Dineyal Makaupa **スリランカ** A. Chanaka Thilakarathna

2000 **インド** Zacivolu Rhakho / Joseph Abonmai **インドネシア** Liberthin Tarigan / Josep Pariaungan Matondang / Samuel Sihombing **日本** 阿部 実 / 佐藤 晴美 / 石井 愛弓 / 藤澤 すや **ケニア** Jane Muthoni Kaburu / Wenslause Khaoya Mukhwana **リベリア** David Gayflor Foday Sr. **ミャンマー** Mai Hnin Yi / U Myint Nwe **ネパール** Mohan Das Shrestha **フィリピン** James Ngala Boliget / Ned Tim Galing Mapangdol / Gabriel Edjan Estil / Aquilino Tagle Toledo **スリランカ** D. S. Pathmasiri / Niranjala Hemamalee Manchanayaka / J.A. Chamika **タンザニア** Christina Aletaramo Kwayu **ウガンダ** Josemarie Kizito

2001 **バングラデシュ** Tapoti Rani Baidya **カンボジア** Phalla Chea **ガーナ** Bernard Timothy Appau **ハイチ** Deslandes Exil **インド** Grace Valliammal Munuswami / Sheela Nayak / Santan Elias Gonsalves / Pfokrehrii B. Kape **インドネシア** Hardy L. Tobing / Ramos Simanjuntak / Juris Tarigan **日本** 濱田 治卓 / 北原 六地 / 越田 尚子 **ケニア** Pamela Akoth Okoth **韓国** Son Daniel **リベリア** Jeremiah Mataldy Bondo / Marpue Mamba Speare **ミャンマー** Lazarus / Sai Noon / Aung Thwin Oo **パキスタン** Asiaa Khan Rasheed **フィリピン** Daniel Kon'ek Longatan **スリランカ** Annet P. Kabistan Royce / Hemalatha Kulathunga / Iyampillai Loganathan **ザンビア** Judith Friday Daka

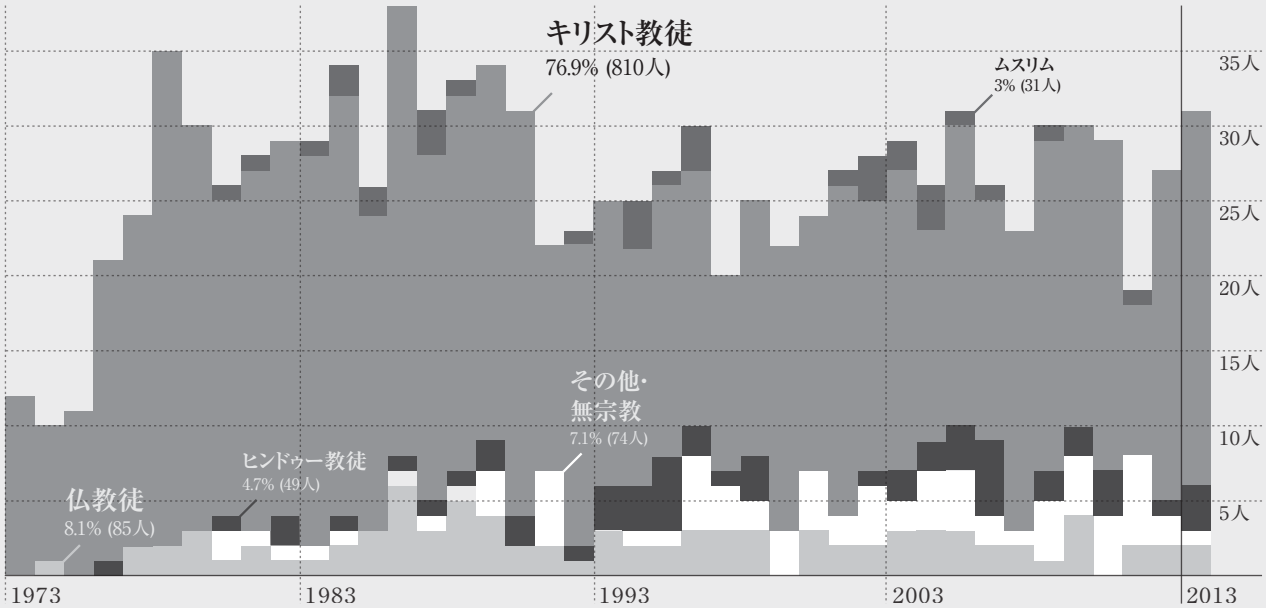
2002 **バングラデシュ** Nasima Khanam* / Shahinur Begum / Victoria Biswas **カメルーン** Billian Nyuykighan Njodzeka **インド** P. Losa / Narayanan Kaliyodath / Arulappan Arokiadoss / Noble Chandradoss Gembeeram **インドネシア** Janri Parknson Damanik / Rein Justin Gultom / Jonsen Sembiring **日本** 川口 景子 / 渡邊 直好 / 久保田 晴香 / 朝夷 佳光 / 古川 奈津子 * / 進藤 陽一郎 **リベリア** Grace Miller-Kanadakai **ミャンマー** Ro Khar Thang / San Min Tun / Stylo **パキスタン** Saima Naheed Sohotra **フィリピン** Susana Mabuan Indino / Gregorio Atanacio Villanueva **シエラレオネ** Alie Bangura **スリランカ** K. Hemajith Premarathna* / T.L. Mahammed Makeen **タイ** Ketsuda Phutta

2003 **バングラデシュ** Afrosa Siddika **カンボジア** Sothea Sok **カメルーン** Sylvester Enongene Nzene / Glory Zuh Azenoi **ガンビア** Lamin Badjie **ガーナ** Theresa Addobea Twumasi **インド** Vijayasingh Ronald David / Jojo Augustine **インドネシア** Jumarni / Tigor Sibombing / Merli Simbolon **日本** 木村 太一 / 村上 公雄 **ケニア** Andrew Onyango Achar **韓国** Woo Eui-bom **リベリア** Dorcas Reeves Smith **ミャンマー** Ni Ni Myint / Twa Mann / Saw Jackson / Brang Nu **ネパール** Meena Bhandari **フィリピン** Milagros Cama-eg Dapuyen **スリランカ** Subramaniam Sivapackiyam / Subashinee Jayasekara / Komathy Arumugam **タンザニア** Restituta Gabriel Kanoni **タイ** Saengthip Khemarat **ウガンダ** Candiga Samson

2004 **バングラデシュ** Swopan Adhikary / Shefaley Begum / Salema Khatun / Shaheen Naznin **カメルーン** Dohnah George Foncha **ガーナ** Amos Banmarigu **インド** Muthu Kuttadamma / Jayesh Saloman Kambale / Edwin Margaaret Molomoo **日本** 藤井 牧人 / 橘 智恵美 / 井上 寛之 / 清水 晴恵 / 尾坂 昌紀 **ミャンマー** Amos Di Van / Ngai Men **ネパール** Til Kumari Pun / Ram Raji Pokhrel **ナイジェリア** Isaac Adegoke Okunloye **フィリピン** Phoebe Delmonte Mission / Alma B. Leyson / Gilbert Pinnoy Hoggang / Gaudencia Melon Tinagan **スリランカ** M. Renuka B. Gunawardanae **ウガンダ** Jean Pierre Ntegyeye **ザンビア** Paul Samba

2005 **バングラデシュ** Shikha Rozario / Rina Adhikary / Farhana Akter / Aney Sarkar **ベナン** Mahoussi Joseph Gbedji **ブータン** Rajan Rai **インド** Thangsat Kipgen / Madhabi Lata Mondal / Sharadamma / Kunjunjamma Charivukalayil Samuel / Mutsezo Tetseo **インドネシア** Veny Julita Tampubolon / Tumiar Simatupang Toga-

宗教の割合



torop **日本** 田中 啓之 / 岡部 美ゆき / 折田 三実 / 澤井 裕太 / 早田茂一 **リベリア** Priscilla Entsua / Grace Agordo **ミャンマー** Tum Hniang / Daniel Myo Aung / Sa Mu Ye Bya / Mg Than Khaing **ネパール** Ratna Parasad Sapkota **フィリピン** Ariel Guiquin De la Cruz / Catalino Abatayo Genayas Jr. **スリランカ** Adikarinayaka M. Ranjani / Janaka A. D. Polambegoda **ウガンダ** Jolly Charles Takoowa Kalema **ザンビア** Habeenzu Simamba

2006

バングラデシュ Rina Rani Moulik / Mir Suraiya Ahmed Tutu / Biswajit Kumar Sarker **ベナン** Kochole Etienne Obossou **カンボジア** Veasna Ouk **カメルーン** Moses Abora Abia / Oscar Fortsin Nkweche / Theodora Tirbaban **インド** Channappa Gavirangappa / Mary S. Pungroila Maram / Babycha Devi Mangsatabam **インドネシア** Sihar Alaris Sinaga / Osten John Matondang **日本** 青木 光理 / 伊藤 幸史 **韓国** Jang Se-hoon **リベリア** Wiyata Johnson Nimley **ミャンマー** Neely Lai Uk / Za Khar **ネパール** Tejendra Poudel **フィリピン** Annalyn C. Rosaban / Lourdes Augusto Sison **シエラレオネ** John Ansu Charles **スリランカ** Nagulenthiran Nallathamby / Buddhi Sapumal Jayabandare **タンザニア** Domitien Kabura

2007

バングラデシュ Arati Modhu **カメルーン** Joseph Mbah Tenjoh / Mbivka Jane-Francis Berinyuy / Eric Dindze Tangka / Fomujong Florence Mah Fon **ガーナ** George Offin Owusu-Ababio **インド** Toshang Khaling / Reeta Sinruwng **インドネシア** Bahara Sihombing / Gede Suarna / Emmy Lasmaria Rajagukguk **ラオス** Phonesawanh Dittaphong **マダガスカル** Vincent Mbolaniaina Rakotoarisoa **ミャンマー** Nang Ngwe Kyi / U Aung Saik / Tial Chin Thluai **フィリピン** Jade F. Alipoyo / Dario Telen Lacaya / Genalyn Magsigay Oliveros / Fred B. Balintay **ソロモン諸島** John Mark Male **スリランカ** S. Chandra P. Mallawarachchi / D. Chandrasiri Udumulla

2008

バングラデシュ Rehana Parvin **カメルーン** Samson Nito Ekwe / Neh Augustina Wanki **ガーナ** George Kwame Koomson **インド** Jaji Karumbaiah Kudiyara / Ricky Nelson Renthlei / Eleazer Raingam / Menovino Krose **インドネシア** Junpiter Hasilholan Pakpahan / Gani Silaban **日本** 内田 真紀子 / 土井 智代 / 石田 綾子 **キリバス** Tebweretaake Tokantetaake **リベリア** Jatu Melissa Wilson-Kollie / Patrick Molay Asumana **ミャンマー** Mya Sandar / Sang Hre / Sung Hnem / Uhtilo Elijah Modu **ネパール** Bikash Subedi **パプアニューギニア** Ekep Puluma **フィリピン** Renato Ngayawen Guilingen / Josie Ngitit Dinampig / Nicholas Pahanggin Tahuyan / Mamalyari Baclay Soria **ソロモン諸島** Ismael Agee Meke **南アフリカ** Nozuko Patricia Toli **スリランカ** Mathiyaparanam Ramachandran / H. Lasitha Udaya Kumara

2009

カンボジア Ban Ven **カメルーン** Ajong Christina Fonge **中国** Chun Xia Guo **ガーナ** Kingsley Namka Nurokina **インド** Karunan Sudhakar / Mangvung Hechin Lheikhochin Haokip **インドネシア** Hugo De Groot Nababan **日本** 東島 達也 / 斉藤 絵里香 / 竹之下 萌愛 / 堀池 舞子 **ケニア** Emmanuel Karisa Baya / Kisimbiri Francisco Singoro **ラオス** Houmphan Sengchanthong **ミャンマー** Saw San Doh / Saw Shekina / Sheila / Naw Pathi Paw **ネパール** Bishwa Raji Gurung / Roshani Kunwar / Nir Maya Rana **パキスタン** Mahnaz **フィリピン** Nazario Dulnuan Tuguinay / Marie Lomino La-ao **シエラレオネ** Josephine Memuna Sharka **スリランカ** H. Thushara Nilmini **タイ** Khanuengnit Polkhayan / Siwakorn Odochao **トーゴ** Edo Agbodo **ザンビア** Lilly Kudzai Phiri

2010

ブラジル Lucinei Luiz Telles **カンボジア** Daneth Him **コンゴ民主共和国** Nday Kyoni John **インド** Bongmoingam Khaling / Muzipolu Nyeka **インドネシア** Reinhart Siregar Parlaungan / Saulina Solin / Kalpin Sembiring **日本** 日下 星之 / 酒井 玲奈 / 菅谷 健 **ケニア** Baya Comulius Katana **キリバス** Mote Teangoa **リベリア** Cooper Kaletona Siakor / Mary Tenneh Kpaka **マラウイ** Macdonald Francis Njala Banda **ミャンマー** Ngun Tial / Saw Manar / Hniang Tial / Hla Zet **ネパール** Sunita Rana / Sandeep Lamsal **フィリピン** Annie Jane Langunas Lagawan / Christopher Denito Domulot / Lester Constantino Manligot Dipit **スリランカ** Sumathi Vithilingam / Nilushini Karunadasa **ウガンダ** Mugwanga David Hannington Luvumu **ジンバブエ** Melody Gapara

2011

カメルーン Ataba Jude Fonsah **ハイチ** Jean Gontran Delgrace **インド** Siby Mathew Periakkottil / Clement Raja **インドネシア** Syamsul Asinar / Lidia Hotmaida Naibaho / Lilin Surianti Zendrato **日本** 木戸 康智 **ミクロネシア連邦** Glorian Dahioboi **ミャンマー** James San Aung / Bya Myar / Paing Kui / May Su Win **ネパール** Bihari Chaudhary **フィリピン** May Grace Maglangit-Maboloc **シエラレオネ** Fatmata Kamara Francess **スリランカ** M. K. Pathirana Arunodth **タイ** Kassirin Phiboon **ジンバブエ** Munetsi Hokonya

2012

ブラジル Joelma Gomes de Queiroz **カメルーン** Joseph Banla Bongajum **ハイチ** Nerlande Baptichon **インド** Adarsh Aralugowdana Chandraju / Chonglise Sangtam **インドネシア** Margareth Marta Sianipar / Soniman Waruwu **日本** 武野 裕太 / 石田 堅吾 **リベリア** Comfort McCarthy / Alexander Saturday Kerkula **マラウイ** Tito Herbert Lezile / Catherine Mtambo **マレーシア** Veni Ester Daniel **ミャンマー** Htun Lwin / Sang Bik Cem / Act Ka Hti / Thaung Si **パプアニューギニア** Joseph Kora **フィリピン** Wilson Dicag Ignacio / Dolphe Tindaan Litawan **コンゴ民主共和国** Kavira Kaniki Salome **スリランカ** M.P. Niroshan Hemantha / W. Gedara Gunaratne **東ティモール** Juliao Nunes Jose / Armando Ximenes **ウガンダ** Emmanuel Ssempiira

アジア学院　卒業生
アジア農村指導者養成専門学校　研究科生　(76名)

研究科課程は1986年度から設置されました。学院を卒業後5年以上自国で働いた経験のある外国人卒業生の中から、“Training Assistant”（TA）が選ばれます。研究科生は、再び学院において自分の専門分野の研修を行うと同時に、職員を補助して学生の研修を助けます。

日本人卒業生は、卒業の次年度に研究科の“Graduate Intern”（GI）に応募する資格をもちます。GI は農業の1分野に焦点を当てて、その分野のより深い理解と幅広い経験を培います。さらにアジア学院の構成メンバーとして、生活のあらゆる場面において重要な役割を担います。

1986	Arun Korkaew	タイ
1987	Ding Rin Brang	ミャンマー
	Wichien Poungporn	タイ
	Chatchai Rachasuwan	タイ
	Leam Wongphabood	タイ
1988	Cherdchai Chaiwong	タイ
	Narong Tongsuk	タイ
1990	Agnes A. Anas	ガーナ
	John Reuben Abdul Haq	パキスタン
	Vigneswaran Theivendram	スリランカ
	Sujit Kumar Baroi	バングラデシュ
1991	Cephas Sinoya	ザンビア
	D. A. Ariyadasa	スリランカ
	Julia Linda Defeo	フィリピン
	Prakit Kumduang Dao	タイ
1992	Vekriyi Venyo	インド
	Roberto Galindo Dalisay	フィリピン
	Teresa Nkosazana Chiya	スワジランド
1993	John Nyondo	ザンビア
	J. K. Walter Silva	スリランカ
	Alvarez Maximo Clave	フィリピン
1994	Zosimo Juntereal Buerano	フィリピン
	A. J. Menike Petikiri	スリランカ
	Hupuabou Newmei	インド
	Godfrey Mutesasira	ウガンダ
	Mayonsing Vashinao	インド
1995	Joaquim Fernandes	インド
	Preticia Kamei Tongsuk	インド
1996	Elias Jackson Bugoke	タンザニア
	Debora Subaga Purada	インドネシア
	Surender Singh	インド
1997	Julito Verdin Serna	フィリピン
	Loida Galilea Lianora	フィリピン
	花岡 潤	日本
1998	Era Colmo Espana	フィリピン
	Yohanis Tandung	インドネシア
	里山 隆徳	日本
	保田 宗忠	日本
1999	Wesly Lingga	インドネシア
	山崎 勝	日本
2000	Liaqat Ali	パキスタン
	打田 喜作	日本
	山崎 陽子	日本
2001	Stuart Sempala	ウガンダ
	Hossana F. Guzman	フィリピン
	藤澤 すや	日本
2002	Gemtausu R. Atusamu	パプアニューギニア
	Sayni Chaudhary	ネパール
	北原 六地	日本
	濱田 治卓	日本
2003	Dipak Kumar Ghosh	バングラデシュ
	Donald Paul	ミャンマー
	川口 景子	日本
	進藤 陽一郎	日本
	窪田晴香	日本
	古川 奈津子*	日本
2004	Laksiri Peris	スリランカ
	Jovy Fodulla	フィリピン
	Cherian Markose	インド
	村上 公雄	日本
2005	Bibeka Nanda Biswal	インド
2006	D. E. K. Mendis	スリランカ
	田中 啓之	日本
	折田 三実	日本
2007	B. Timothy Apau	ガーナ
	Naw Lee Myar	ミャンマー
2009	Rhakho Zacivolu	インド
	Shanta Chaudhary	ネパール
	Saw Jackson	ミャンマー
	内田 真紀子	日本
	土井 智代	日本
	石田 綾子	日本
2010	竹之下 萌愛	日本
2011	Miatta Roberts Sirleaf	リベリア
2012	Lourdes Augusto Sison	フィリピン
	Veny Julita	インドネシア
	木戸 康智	日本

1986-2012

理事

1973–1982 高見 敏弘 / Walter Shore / 郡司 昌佳 / 福本 治夫 / 神塚 アーサー / 中嶋 正昭 / 菊地 創 / 小川 清司 / 花房 譲次 / 遠藤 栄 / A. E. Mathews / 田嶋 篤次

1983–1992 高見 敏弘 / 田嶋 篤次 / 福本 治夫 / 遠藤 栄 / 中嶋 正昭 / 菊地 創 / 小川 清司 / A. E. Mathews / 関屋 綾子 / 塩月 賢太郎 / Gretchen DeVries / 原 徹 / 布施 濤雄 / 福田 龍介

1993–2002 高見 敏弘 / 田嶋 篤次 / 福本 治夫 / 布施 濤雄 / 原 徹 / 中嶋 正昭 / 関屋 綾子 / 福田 龍介 / 菊池 英男 / 田村 嘉應 / 一色 義子 / 植田 仁太郎 / 遠藤 抱一 / 李 仁夏 / 古屋 安雄 / 田坂 興亜 / 星野 正興 / 丹羽 章

2003–2013 古屋 安雄 / 田坂 興亜 / 福田 龍介 / 田村 嘉應 / 李 仁夏 / 星野 正興 / 遠藤 抱一 / 植田 仁太郎 / 久世 了 / 山田 正 / 丹羽 輝子 / 丹羽 章 / 野崎 威三男 / 大津 健一 / 佐藤 範明

監事

1973–1982 小山田 道夫 / 小川 孟 / 武間 謙太郎

1983–1992 小山田 道夫 / 武間 謙太郎

1993–2002 小山田 道夫 / 武間 謙太郎 / 船津 祥 / 原田 時近

2003–2012 船津 祥 / 原田 時近 / 大屋 秀之 / 渋井 正明

評議員

1973–1982 中嶋 正昭 / 古屋 安雄 / 竹中 正夫 / 衞藤 瀋吉 / 塩月 賢太郎 / 内藤紀夫 / 李 仁夏 / 布施 濤雄 / 島田 貫司 / 松島 省三 / 菊地 創 / 有沢 政義 / 長嶋 清 / 野崎 威三男

1983–1992 中嶋 正昭 / 古屋 安雄 / 竹中 正夫 / 衞藤 瀋吉 / 塩月 賢太郎 / 内藤 紀夫 / 李 仁夏 / 布施 濤雄 / 島田 貫司 / 松島 省三 / 菊地 創 / 有沢 政義 / 長嶋 清 / 野崎 威三男 / 田村 嘉應 / 功能 聡子 / 厳 泰成 / 皆川 義二 / 菊池 英男

1993–2002 中嶋 正昭 / 古屋 安雄 / 竹中 正夫 / 衞藤 瀋吉 / 塩月 賢太郎 / 李 仁夏 / 布施 濤雄 / 島田 貫司 / 松島 省三 / 関屋 綾子 / 菊池 英男 / 長嶋 清 / 安井 武雄 / Alicia Gibaga / Barbara Mueller / 田村 嘉應 / 皆川 義二 / 厳 泰成 / 佐藤 範明 / 高井 清 / 三浦 照男 / 山形 東 / 荒井 俊次 / 黒須 靖 / 濱尾 文雄 / 伏井 真紀 / 原田 俊二 / 長谷川 潤 / 大宮 謙 / 大庭 セイラ / 塚本 智 / 福本 光夫 / 潮 義男 / 山田 正 / 山根 正彦

2003–2013 菊池 英男 / 島田 貫司 / 厳 泰成 / 佐藤 範明 / 荒井 俊次 / 原田 俊二 / 長谷川 潤 / 大庭 セイラ / 福本 光夫 / 潮 義男 / 山田 正 / 山根 正彦 / 塚本 智 / 長嶋 清 / 三浦 照男 / 山形 東 / 山本 俊正 / John B. Hoover / 荒川 朋子 / 菊地 功 / 中村 満 / 丹羽 章 / 星野 正興 / 遠藤 抱一 / 宮崎 幸雄 / 李 秀夫 / 伊藤 幸史 / 荒川 治 / Steven Cutting / 植田 仁太郎 / 野崎 威三男 / 福田 龍介 / 久世 了 / 石川 宗朗 / 興石 勇 / 菅野 勝之 / 山口 和枝 / 米田 ミチル / 佐久間 郁 / 森 津之 / 江尻 美穂子

職員 （専任職員・非常勤職員・嘱託職員含む）

1973–1982 高見 敏弘 / 福本 治夫 / 有沢 政義 / 有沢 幸子 / Gretchen DeVries / 井草 正 / 菊地 創 / 橘 慈子 / 牧野 一穂 / 長嶋 清 / 関谷 保子 / 小林 みよ子 / 浅井 重郎 / 野崎 威三男 / 高見 泰子 / 岡田 則子 / Mario Barbery / Joy Barbery / 大島 美代子 / 桜井 正恵 / 安井 武雄 / 菊地 ふじ / 穂積 夏子 / 吉田 英子 / 君島 春江 / 横関 路子 / 楠 利明 / 大貫 真紀 / Keo Inthavongsa / 山田 英津子 / 森 悠子 / 宮本 潤子

1983–1992 高見 敏弘 / 菊地 創 / 福本 治夫 / 有沢 政義 / 有沢 幸子 / 野崎 威三男 / 高見 泰子 / 君島 春江 / 菊地 ふじ / Gretchen DeVries / Joy Barbery / 山田 英津子 / 安井 武雄 / 浅井 重郎 / 三浦 照男 / 長嶋 清 / 久保 祐輔 / 佐藤 和美 / 宮岡 明子 / 渡辺 純子 / Dick Jonson / 楠 利明 / 澤谷 常清 / 安井 陽子 / 飯村 成子 / 石井 信子 / 山形 愛子 / 山形 東 / 小林 啓一郎 / 柿沼 潤 / 村上 健 / 相馬 和子 / 功能 聡子 / 中家 由紀子 / 稲本 敬夫 / 飯島 恵子 / 鈴木 美和 / 松本 アツ子 / John Reuben Haq / Alicia Gibaga / Scott Hirano / Barbara Mueller / 長松 さおり / 長松 孝明 / 塚本 智 / 高見香 / 富田 まき子 / 原 徹 / 宮本 潤子 / 田中 美代子 / 八木沢 幸子 / Jean Lloyd / 戸村 園子 / 菊池 英男 / 菊池 正子 / 高見 信 / 澤谷 ひろみ / David Marcle / マークル寿子 / 長谷川 祥子 / 小倉 恭子

1993–2002 高見 敏弘 / 長嶋 清 / 原 徹 / 村上 健 / 遠藤 抱一 / Barbara Mueller / 岸 はつえ / 芦田 緑 / 石井 信子 / 稲本 敬夫 / 藤田 カツノ / 長松 孝明 / 長松 さおり / 富田 まき子 / 久保 祐輔 / John B. Hoover / 鈴木 美和 / Alicia Gibaga / 安井 武雄 / 相馬 和子 / 長谷 川祥子 / 小林 啓一郎 / 池迫直人 / 山形 東 / Wijendra De Silva / 植田 仁太郎 / 三浦 照男 / John Reuben Haq / Park Mi-ae / 池田 美奈子 / 山上 嘉孝 / 宮島 真 / 宇野 仰 / 荒川 朋子 / 大場 サラ / 大野 久美子 / 田仲 順子 / 山上 郁子 / 片桐 洋史 / 池沢 聡子 / 伊藤 幸慶 / Nancy Molin / 足立 昌子 / 生田 奈美江 / 花岡 潤 / 山崎 勝久 / 石川 宗郎 / 佐久間 郁 / 大村 奈々美 / 山口 能子 / 古屋 安雄 / Josephine Aguilar / P.A. Jayasundara Menike / 加藤 京子 / 山崎 陽子 / 菊池 崇徳 / 中島 文子 / 田坂 興亜 / 塚本 智 / 荒川 治 / 遠藤 優子 / 里山 隆徳 / 吉田 麻美子

2003–2013 高見 敏弘 / 田坂 興亜 / 三浦 照男 / Josephine Aquilar / 荒川 朋子 / 荒川 治 / 遠藤 抱一 / 田仲 順子 / 佐久間 郁 / 遠藤 優子 / 長嶋 清 / 藤田 カツノ / 山口 能子 / 石井 信子 / 石川 宗郎 / 大柳 由紀子 / John B. Hoover / 里山 隆徳 / 山形 東 / 芦田 緑 / 君嶋 満恵 / 村尾 嘉胤 / 塚本 智 / Susan Adams / Ban Hyung-wook / Chung Jeen-hae / Steven Cutting / 森 律之 / 村上 祐子 / 中村 満 / 小倉 孝子 / 滝本 のぞみ / 菅原 道子 / 野崎 威三男 / Laksiri S. Peiris / 宮木 梓 / 後藤 広子 / 貴島 英慈 / 楠 利明 / 青木 健 / 永谷 嘉規 / Gilbert P. Hoggang / 佐藤 裕美 / 竹内 和彦 / 中村 朱里 / Timothy B. Appau / Naw Lee Myar / 中島 みのり / 大津 健一 / Zacivolu Rhakho / 壁谷 早苗 / 山口 敦史 / 福島 昌代 / Jonathan McCurley / 山下 崇 / Thomas I. Fujishima / 西 由美子 / 大谷 崇 / Kathleen Froede / 上村 真由

ARISA
アジア学院後援会会長

郷司 浩平 / 武藤 富男 / 湯浅 恭三 / 一色 義子 / 衞藤 瀋吉 / 佐藤 範明

AFARI
北米アジア学院後援会会長

Roger Manners / Dave Cutting / Pam Hasegawa

過去と未来の40年

アジア学院の古い写真を見ると、いつ撮られたものかわからないことがあります。似たような情景、つまり違う国から来た人々が畑で共に働き、豚舎を掃除し、あるいは一緒に歌っているシーンが多いからです。学院の研修は年毎に発展しているにもかかわらず、このような光景、つまり土に近いつましい共同体生活を楽しむことは一番最初の年、1973年から変わらずに残っているのです。

もちろん学院を取り巻く世界は、1973年から比べて劇的に変わりました。世界の人口はおよそ2倍になり、都市部に住む人が農村にいる人よりも多くなりました。グローバリゼーションは情報と資本と移民を、人災によって苦しむこの地球の至る所まで拡散し、計り知れない変革を引き起こす勢いになりました。近い将来、さらに極端な変化が予想されています。

不気味に迫る明日の挑戦と歴史の予測不可能な流れを考えれば、私たちは自身に問いかけなければなりません。「アジア学院は2033年の、さらには2053年の農村の人々に対して重要性を持っていくのか?」と。

アジア学院の使命はイエス・キリストの愛に基いています。この愛とは、社会的な暴力や飢餓、環境汚染、武力紛争、あるいは気象災害などに苦しむ一人一人の人間への奉仕を意味しています。40年間にわたり、アジア学院卒業生はそのような人々を自立と正義と平和に導いてきました。50を超える国々で、卒業生たちは持続可能な農業を実践し、教え、灌漑を確保し、医療のために働き、あるいはインフラも整備されていない人里離れた場所で働いています。災害救援に携わる者、難民のために働く者もいます。多くの卒業生は子どもたち、特にエイズ孤児や元少年兵の教育に携わっています。

私たちアジア学院は、草の根の人々を通して建設的かつ持続する変革が可能であると、前向きに信じています。過去を検証するとき、環境に優しい方法で食べ物をつくるという私たちのアプローチは、どのような時代にあっても問題を解決する鍵となることが証明されてきました。支援者の皆様からの援助により、私たちは福島原発大事故など過去に類のない危機も乗り越えることができます。これから卒業生たちの経験に耳を傾けて、次の世代のリーダーたちのためにもっと研修を改善していくことを私たちは望んでいます。聖書に「この国から貧しい者がいなくなることはないであろう」という言葉があります。教育プログラムを通し、アジア学院は草の根の人々と、一歩一歩、尊厳の道のりを歩き続けていきます。

草の根の指導者と共に － 40年の歩み

■ 発行所　学校法人アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校
〒329-2703 栃木県那須塩原市槻沢 442-1
tel: 0287-36-3111　fax: 0287-36-5833
■ 発行人　大津 健一
■ 発行　2013年9月16日
■ 印刷　（有）栃木民報 松本印刷所

■ 編集委員　大津 健一
菊地 創
楠 利明
田仲 順子
長嶋 清
Thomas Itsuo Fujishima
Jonathan McCurley

アジア学院のテーマソング

Take My Hand

VERSE 1

F dmin Bb
I'm calling to the country folks who work upon the land

F dmin gmin C7
To come and see the vision we have shaped into a plan

dmin amin Bb G
Side by side we'll find a life of strength and dignity

gmin F gmin Bb C7
Until the day we all can feed ourselves we never will be free

CHORUS

F C F gmin Bb
Take my hand which has labored in the soil

F dmin Bb C
Together we will stand for together we must toil

amin dmin Bb G
To build a world where hunger will not keep the people chained

gmin F C Bb F
To build a world that will still bear fruit tomorrow.

VERSE 2

I'm calling to the rich folks in their mansions down the road
To come and see the backs that break while carrying your load
Please come let us show you how the chemicals you send
Kill the earth that one day must support your children.

CHORUS

VERSE 3

I'm calling to the heavens to the power there above
To thank you for the harvest given freely through your love
Grant us courage, strength and hope throughout the coming year
For the sake of all the planet Lord, we pray that you can hear us singing

CHORUS (2x)

作曲: Christopher Grundy, 1992

アジア学院の使命と目的

アジア学院の使命は、イエス・キリストの愛に基づき、
個々人が自己の潜在能力を最大限に発揮できるような、
公正且つ平和で健全な環境を持つ世界を
構築することにあります。

この使命の実践に当たって、私たちは、
共に分かち合う生き方を目指して、
農村指導者の養成と訓練を行っています。
主としてアジア、アフリカ、太平洋地域の農村共同体に生き、
働いている男女の指導者たちが、
毎年職員やアジア学院に集うその他の人々と共に
学びの共同体を形成します。

この共同体に根ざした学びを通して、
私たちは農村の人々が地域で
自分たちの持っている資源や能力を
共通の目的のために分かち合い、
活用する最善の方法を見出してゆくのです。

アジア学院は、
食べものといのちについての独自のアプローチによって、
我々自身と全世界に問いかけを続けていきます。

共に生きるために

ミッションステートメント〈使命と目的〉について

1973 年発行のアジア学院概要では、「< アジア学院の目的は > 神の愛にもとづいて、アジアの農村地域社会の人々の向上と繁栄に献身する中堅指導者を養成し、公正で平和な社会の実現に寄与することです。」と記されている。1980 年代に入って、対象地域を「アジア・アフリカ等」に広げることが明記され、「" 第 3 世界" の人々の自立的開発」を目指すことを付け加えた。また 1990 年代には、「"第 3 世界" の人々」を「社会の周縁に置かれた人々」と改め、全てのものが共に生きるために、いのちを支える食べ物を大切にしていくことを、研修活動の中心におく旨を確認した。さらなる協議を経て 2000 年に現在のミッションステートメントの形になった。

「 草の根の指導者と共に - 40年の歩み 」

学校法人　アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校